

大正三年

(二月)

一月一日 丁亥 木曜 晴朗。

本年ハ大正三年を迎へて、家内一同下婢僕に至る迄一人の病氣もなく、実にめて度事限りなし。朝六時起て、天神地神を始め、両陛下、皇太后宮を拝し、わか祖先を拝して、挙家一同、学校作法室にて校長を始め椒酒雑煮を祝ふ。賀客、津田、姉小路、長尾夫婦、石山基威、新田純興。

*めて度(目出度) *わか(我が)

一月二日 戊子 金曜 晴。

挙家一同、学校作法室にて例の如く雑煮を祝ふ。賀客、安部氏、橋本宗二郎、観世元滋、基威氏。午下早々廻礼す。角田氏、閑院宮、三条様、北白川宮、竹田宮、毛利公、小早川、岩崎男、東伏見宮。入夜帰。

一月三日 己丑 土曜 晴。

例の如く作法室にて雑煮を祝ふ。賀客、李子、辰子、雨宮、城、石山基陽氏。

一月四日 庚寅 日曜 晴。

朝八時、泰、花輪え出立す。予、寿子と観世初能見物す。入夜帰。正子、市川行。

一月五日 辛卯 月曜 晴。

朝十時、角田君来られ、大束氏、石山氏、予、李子と職員之事件ニ付会議す。十二時済。午下早々、予、李子と本郷中村え写真撮影して帰。正子、寿、靖子、早苗、本郷池田え写真ニ行。茅町岩崎男より早稲田大隈伯を問て帰。

一月六日 壬辰 火曜 寒の入。晴。夜雨。

賀客、鳥尾智勢、五島子、富永発叔、其外ハ不記。午下三時半より、予、寿子と帝劇に行。小

桜おどし、其外、お夏清十郎、金にうらみ、面白く見て帰。

一月七日 癸巳 水曜 雨、后晴。

人日。七草粥を祝ふ。晡時より石山基威氏え、予、正子と同じく晚餐に呼れて帰。

一月八日 甲午 木曜 晴、風。 予記 当校生徒始業式、午前十時より。

朝十時、職員生徒一同来集。式場着席。校長勅語奉読、主事、生徒ニ挨拶、君か代、三、四年、五年之唱歌、式畢而余興。広場に出品景物台を置、其上もり上て、一度二五十人ツ、目かくしてヲルガンに合せて唱歌うたひながら、楽の止む時に景物を自分にてとる。一回ツ、其通り、六百人余の生徒、先一時間にて福引畢而、閉会。千代友菓子を遣す。職員一同ニ昼飯、親子どもんぶりを出す事。

*目かくして(目隠して)

一月九日 乙未 金曜 晴。 予記 閑院宮より、十五日午後参殿之事仰せられる。

本日、朝九時より授業。

一月十日 丙申 土曜 晴。 十日満月昼の如し。

朝九時出勤。授業如例。午下二時より有地男え悔二行。靈柩に参拝して帰。帰途、石山基陽氏二年礼二行。新夫婦不在にて、すま子、うたひ初なとして夕餐にあひて帰。正子、早苗、代々木二行で一泊。来客、安田千代子、橋岡氏。

有地氏え金三円也、香奠。

*うたひ初(謡初)

一月十一日 丁酉 日曜 晴。 4 (ママ) (度)。 予記 大谷伯え福引物品さし出す。

発信 長野県原六雄、絹本物品返却。

一月十二日 戊戌 月曜 予記 愛国婦人会より在地氏之会葬、御断申候。

(コノ日、記事ナシ)

*在地氏(有地氏)

一月十三日 己亥 火曜 晴。 予記 午下一時より日比谷大松閣にて謡初。大谷光瑩伯御催し。

朝より寄宿舎にて研究生始業す。閑院宮茂子女王御参内。賢所御参拝。陛下より勲二等宝冠章ニ叙せらる。予、参殿恐悦申上て、日比谷大松閣二行。大谷伯を始め御参集。翁、囃子、謡、五派之五番アリ。食事中、囃子舞、仕舞十余番。夫より福引。十時過済て帰。月清光、氷の如し。弘、夜八時汽車にて京都に帰る。
受信 御寺御所より都豆着。

一月十四日 庚子 水曜 雨。五十八(度)。 予記 午下一時より愛国婦人会偕行社にて新年会。俄に欠席。

課業例の如し。午下早々、天俄然空験悪風雨にて、温度五十八度と云。愛国婦人発会を欠席、断り候。正子、長尾、津田え行。
発信 御寺御所え返書す。

*験悪(険悪)

一月十五日 辛丑 木曜 晴。 予記 午下より閑院宮え参殿。李子同行。

朝十時半、横浜石川徳右衛門、細君、倅範三新夫婦房子、小児光子、石井初子、初客にて、寄宿舎李子居間にて祝酒。房子、実母も来りて午餐を饗す。予、李子同席す。午下二時、全済て、予、李子同道、閑院宮様ニ参る。茂宮様、御拵御調度御飾付を拝見す。眼もまはゆく御振袖御模様、御帯等只々おもなるものゝみにて、御打着、濃大腰、実に結構いはん方なし。御夜具もいく組か御見事なり。御息所、茂宮様ニ拝謁して五時退ル。

*まはゆく(目映く) *打着(桂)

一月十六日 壬寅 金曜 晴。

朝より金曜日の初授業にて、松平鞆子、堀田伴子、角田栄子、河村晴。柳房子、今般良縁ありて帰国ニ付御暇乞に来る。午下、広沢、鈴木豊子。

発信 大宮尼え。

一月十七日 癸卯 土曜 晴。

休業。泉会新年会、午前十一時より寄宿舎八号、九号にて。会員続々来集。余興、第一、三河万歳斬新を演ず。三味線、胡弓、鼓にて御茶番、意外に面白く、婦人の長唄、鶴亀、外一番、小園（円）遊のはなし。畢而、食堂にて午餐、アツ／＼の御赤飯、御雑煮、御取肴箱入。一同食事済て福引はしまる。面白く午下四時全畢。惣員百七十人也。

一月十八日 甲辰 日曜 晴。

（コノ日、記事ナシ）

一月十九日 乙巳 月曜 晴。 予記 閑院宮より、花蹊、李子同伴、午下一時二参殿下（衍）の事。

朝十一時より、予、李子と閑院宮へ参殿ス。本日、御教授申上候教員みな召れ、御息所、茂宮拝謁仰付られ、是迄種々教育に尽力之事、君様より御挨拶あらせられて、教員惣代理にて此度の御慶事恐悦申上る。御食堂にて一同え御酒肴及羽二重一疋ツ、賜はる。二時後退出す。

一月二十日 丙午 火曜 晴。

課業例の如し。来客、石山すま子、さた、栄子来られて御祝酒出す。已而帰。

一月二十一日 丁未 水曜 予記 閑院宮茂子女王殿下、黒田家に御降嫁、正十二時御出門。朝十時より閑院宮へ参殿す。是迄の古き御使人大せい召されて御賑々敷事也。やかて御仕度御出来上りにて、御くしハ大すへらかし、赤地白紋ちらしの御打着、単時色濃の大腰に二等勲章宝冠章を（以下、記述ナシ）

*大せい（大勢） *御打着（御桂） *時色（鶉色）

一月二十二日 戊申 木曜 晴。

朝十時頃より、予、正子と同伴、代々木石山家え年礼二行。大炊御門家にて種々もてなし。午餐ハ家政氏にて饗応せられ、吉子さま、師前様、皆々御出にて四方山の咄しに不堪（絶）、とう／＼夕飯、石山家よりの御馳走にて、食後帰。弘、京都より昼前帰宅。大学教授の騒動にて也。

一月二十三日 己酉 金曜 晴。

朝より校外生稽古する。午下も同様。

一月二十四日 庚戌 土曜 晴。

課業例の如し。

一月二十五日 辛亥 日曜 晴。

(コノ日、記事ナシ)

一月二十六日 壬子 月曜 晴。

課業例の如し。

一月二十七日 癸丑 火曜 晴。 予記 恭宮様、本日より御稽古。

朝九時前より、恭宮様成らせられ御稽古申上る。十時より研究生稽古する。

一月二十八日 甲寅 水曜 晴。 予記 徳川伯より、明日午下二時より鉄子さま御出の事申

来る。

課業例の如し。茂木栄子より電話にて、恒子過日来より猩紅熱にて大学え入院のよし申来る。

発信 京都府多気氏え書出す。

一月二十九日 乙卯 木曜 晴。

午下一時より、松平鞆子さま御入来にて、二時、徳川鉄子夫人はしめて御入相成二付、先以御出二相成。其内鉄子様御来臨にて、旧冬よりの御挨拶ありて、種々何くれと御談話にて、御合のものさし出して、御親しく御父様慶喜公の御はなし共被遊て、四時過御帰り相成たり。鞆子さま、御跡にて御遊ひ、五時頃御帰り也。星野花子、御児連て久々に面会す。田島春子母死去二付、香料及菓子霊前え。閑院宮より御使にて、茂宮御慶事済せられ候二付、松魚一箱、羽二重一疋御下附相成たり。

受信 鹿兒島加納美保子より書至。

発信 京都府多気氏え額面小包出す。

一月三十日 丙辰 金曜 晴。予記 海事協会より新年会二月五日催申来る。本日より慰問袋切地来る。六千枚仕立る約束也。

校外稽古日。朝九時過、三条様より電話にて、公爵様昨午後五時頃より昏睡状態ニ付、御知らせ申との事ニ付、急速三条家に行。資君様、智恵君様を御始め、御枕辺に愁傷の御模様にてもはや何の御答もあらせられず、医師、看護婦も付切にて何のすへもなき御模様にて、遂に十二時半、御事切ニ相成。実に御いたましさの限り也。御一同末期の水をさゝけられ、此場を転して種々の御なげきの御咄し共也。午下三時、予ハ一先引退く。此夕七時過より、予、李子と黒田清暉君を訪ふ。待受られて、御相談之件よく聞入られて後、桜島より持帰られたる品々拝見して驚入たり。九時過帰宅。来客、酒井喜美子夫人。

*昏睡状態(昏睡状態) *すへ(術) *黒田清暉(黒田清輝)

一月三十一日 丁巳 土曜 晴。

課業例の如し。来客、横浜古や朝子、田辺栄子。

発信 鵜沼清水初子え見舞物小包出す。

*古や朝子(古屋朝子)

(二月)

二月一日 戊午 日曜 晴。

来客、斎藤本、梶田三郎。正子、早朝より中山え行。午下二時、墓参して帰。此時、香山氏より端書にて、操児昨正午死去のよし申来ル。予、直ニ備物持参にて今川小路跡氏え行。葬送の出した跡にて、留守人ニ申置て帰。夫より三条家二行。昨夜、御入棺にて只今表ニ御移しに相成。夜八時頃迄御霊前侍りぬ。已而帰。

*備物(供物) *今川小路跡氏(今川小路跡見)

二月二日 己未 月曜 晴。予記 和憩会、堀田家にて。

課業例の如し。和慰会午下五時より。幹事堀田正恒伯、李子也。五時より堀田伯家二行。本日ハ裏松友光上海え出張を命せられたる二付、送別会を兼ての発会、会員殊に大勢にて、酒井三人、葉室夫婦、裏松二夫婦、正親町夫婦、加茂夫婦、万里二人、予、李子、廿人也。二階抱処にて、下座敷にて食堂を設け、落語、三味線入、又食事に趣向あり。東海堂汽車行中之趣、東京団子、大船の押すし、瀬戸内海の鯉のさし身、御口取箱詰、静岡の鯛めしと云。其内福引有。後又三味線入、福引わかものとの哥によりて、後の分ハ当りし人ハ皆かくし芸をやる。面白し。十一時を過て一先食卓を転して、二階で各電遊にて芸をやる。とう／＼十二時になる。一同退散。

発信 茂木松子、大宮智栄え。

*和慰会(和慰会) *抱処(控処) *東海堂(東海道) *わかもの(我t@もの) *かくし芸(隠し芸)

二月三日 庚申 火曜 晴。

朝、恭宮成らせられる。後、研究生、教授。今夕、黍、銚子より帰。獲物、山兔九頭と小鳥持帰。

二月四日 辛酉 水曜 晴。 予記 橋岡来る。

本日より試験、画手本出す。課業例の如し。

受信 岡村尚子より鴨、真綿着。鵠沼清水初より片瀬饅頭、書着。

発信 岡村氏え返書出す。

二月五日 壬戌 木曜 晴。 予記 海事協会事務所ニ於開催、午下一時より。

来客、北里虎子。午下一時より霞ヶ関大谷伯を御見舞申上ル。御病氣もよほど御よろしき趣にて大めに安心。それより海事協会ニに(衍)会す。新年会。会長毛利安子様、鍋島様、理事長有地男も。毎もよりハ盛会にて、余興貞水の講談、大黒彫刻、義士伝中間重次郎□□也。畢而福引、食事。七時頃帰。

発信 沼津清水え返書出す。

*毎もより(いつもより)

二月六日 癸亥 金曜 曇、雪。

朝、堀田、角田、河村、長谷川の四人也。午下、恭様成らせられる。外三時迄。三時より、予、李子と三条家に行、参拝して帰。朝より曇にて、午下雪ちらつき、已而晴。

受信 五島万千代より書至。北海道北見長尾仙子より磯の雪二箱着。

発信 名和吉永え短冊二枚出す。

二月七日 甲子 土曜 晴、風。

課業例の如し。午下一時より式場ニ於て九州之災役と東北之きょんニ付寄附のため活動写真を生徒ニ見せる。桜島ばく発之状一、外数番面白く、四時畢。明日横浜え年賀之つもりにて土産物こしらへ準備する。予、せきしきりにて夕方より伏す。田島母みつ葬式ニ付、木村代理す。受信 木津鯛天松之助より書至。北海道(以下、記述ナシ)

*災役(災厄) *きょん(飢饉) *ばく発(爆発) *せき(咳)

二月八日 乙丑 日曜 雪、雨。雪積五、六寸。

予、未たせきつよくて臥蓐す。李子のみ朝八時より横浜ニ行。

受信 木曾手塚氏より朱壁(塗)膳着、書も。

二月九日 丙寅 月曜

微恙、臥蓐す。

二月十日 丁卯 火曜 晴。予記 三条公美公葬儀、十二時〇(ママ)三十分御出棺之事。

本日も臥蓐す。三条公会葬も不出来、代理差出したり。

二月十一日 戊辰 水曜 晴。予記 有地夫人月忌ニ付、午前十一時築地別院にて法会執行。御断す。

本日も臥蓐す。

二月十二日 己巳 木曜 晴。

本日も同様。

二月十三日 庚午 金曜 晴。

横浜石川範三、房子の結婚披露会、千とせ楼にて執行。予ハ断。泰、寿子、正子も断。李子の
出向たり。金曜稽古する。午下も宮様成らせられる。試験の御手本出す。

*千とせ楼(千歳楼) *李子の(李子のみ)

二月十四日 辛未 土曜 晴。

休業す。

二月十五日 壬申 日曜 晴。

臥蓐す。

二月十六日 癸酉 月曜 晴。

休業す。

二月十七日 甲戌 火曜 晴。

床払。朝、恭子女王成らせられる。外、研究生昼迄。来客、志賀鉄千代。津田弘視氏、見舞に
来られる。

発信 鎌倉岩浪え小包物及書。長州毛利国子えも。茂木松子え。横浜桃井え。大宮智栄え。千
葉保田竹え。越後西蒲原郡地(蔵)堂町山宮半四郎、絹本返却。

二月十八日 乙亥 水曜 晴。

朝、課業例の如し。さりなからあまりくるしさに午後ハ休業す。長尾氏に**★**(目十察)を乞
ふ。インフルにて耳目もあしく、胃か第一あしく、食物其外十分に養生肝要。こゝ一週間ハ臥
蓐すへしと云。其手当下され候て、薬用す。牛乳一合朝夕、麦飯の粥、梅ほし昼夕二度。井深
氏ハ日々**★**(目十察) おこたりなし。

***★**(目十察) (一**★**察) ***★**(目十察) (一**★**察)

二月十九日 丙子 木曜 雪。

政海泥濁の此頃を、

政海をかきにししたる世の中を清めよとてか雪のふりくる

東北（以下、記述ナシ）。高崎市新町岡田源三郎三女種子、下谷二長町有山久次郎と結婚約なり、本日、日比谷大神宮にて式を挙ぐる由、申来る。

*かきにし（かき濁し）

（二月二十日、記載ナシ）

二月二十一日 戊寅 土曜 晴。

臥蓐。朝、便通ありて気分よろし。来客、津田栄子。

二月二十二日 己卯 日曜 雨、雪。

朝より雨にて寒し。臥蓐す。病、追而少々つゝよき方也。のどのかわき方甚し。耳いまたかはかす、絶す耳だれあり。便通なし。

*よき（良き） *のど（咽） *かわき（渴き） *かはかす（乾かす） *絶す（絶ず）

二月二十三日 庚辰 月曜 雪。

きのふよりの雪積事四、五寸、寒気甚し。大坂鯛天よりの依頼之鉾物二付、和田維四郎君を頼みたるに、今朝九時に物品持参と云。石山氏持参いたし、鑑定書下されて満足す。

鯛天家伝来ノ透明円形ノ鉾物ハ、水晶ニシテ金剛石ニハアラズ、現今ハ珍ラシカラサルモ、往時文物ノ開ケザル当時ニ於テハ、堅硬ナル水晶ヲ加工シタルモノトシテ頗ル珍重セラレシナルベシ。此種ノモノハ現今ノ価ヲ以テ評スヘキニアラズシテ古代ノ無作物トシテ尊長スベキモノナリ。

大正三年二月廿三日

和田維四郎

来客、香山氏。

便通なし。

発信 大坂鯛天え書及小包にて鉾石并瑪瑙印章も出す。京都叔（淑）徳女学校より依頼の写真一葉出す、田島氏え。

*尊長（尊重） *京都叔徳女学校（京都淑徳女学校）

二月二十四日 辛巳 火曜 晴。 訃音、東儀季熙義廿三日死去、廿六日午後一時葬式。

雪のあしたの空、殊に晴わたりて清々し。昼食はじめて御味噌汁の味覚えたり。宮様御稽古御休みを願ふ。閑院宮様より御使者にて病氣御尋ねとあらせられ、御見事なる御菓子賜はる。来客、安田照子、李子と三越え雛人形もとめに行。瓦期居間ニ引置。

*東儀季熙義(東儀季熙儀) *瓦期(一(瓦斯))

二月二十五日 壬午 水曜 曇。

床を払て起。筆研掃除する、午下。来客、松平鞆子様、島田信さま、見舞に御出下され、暫時にして帰らる。東儀氏え備ものえ使出す。三条様え喪中御見舞、御すもし上る。志賀氏の孫女矢田捺子え雛人形祝ふ。

*備もの(供もの)

二月二十六日 癸未 木曜 雨。

朝、かたき便通あり。心地よし。来客、河村晴子、見舞ニ来られたり。容体大ていはとこのひたり。耳たけ未だし。長尾氏来りて眈★(言十察)を乞ふ。病ハ癒たり。食事養生のみ。耳いまだ不快なり。

受信 牧野柳子より病氣見舞状来る。

*とこのひ(整ひ) *耳たけ未だし(耳だけ未だし) *眈★(言十察) (一(眈察))

二月二十七日 甲申 金曜 晴。

朝より床払する。稽古は皆断る。午下、宮様だけ御稽古申上る。来客、角田栄子。

二月二十八日 乙酉 土曜 晴。

来客、姉伯、予を見舞はれたり。二階ニて雛祭りする。

受信 岡山津田より礼状着。

(三月)

三月一日 丙戌 日曜 晴。

気分よろしくて。金地額面富峰之図、絹本額面富峰之図、二枚、はしめて揮毫す。

三月二日 丁亥 月曜 曇。夕景より雨。

課業、教場え出張す。然し何となくくしく覚え候。臥蓐す。二階座敷にて雛祭。子供等の御客にて賑々し。深更二時頃、雷鳴ニ驚候。

三月三日 戊子 火曜 晴。

朝、恭宮成らせられる。続て研究生之教授する。夕方より寄宿舎にて雛祭ニ呼れる。生徒一同雛料理にて大賑々し。予挙李子座敷、雛の前にて御馳走ニ成る。九時帰。発信 京都弘え、房州いく子え、桃井浜、茂木松子、大宮智栄え書出す。

三月四日 己丑 水曜 晴。 横浜田辺幸七妻死去。

朝より下利して又臥蓐する。午下、長尾氏ニ診★(言十察)をうけ、食物を粥のおも湯と梅肉のみにて、一周間講堂え出ぬ様ニの厳命により、又養生專一にする。来客、角田氏、新田細君

添書頼み、原氏え書をよす。

受信 大坂吉宗英子より。

*下利(下痢) *診★(言十察) (診察) *一周間(一週間)

三月五日 庚寅 木曜 雨。

雨後晴たり。昼時より正子代々木二行。来客、鳥尾智世子。書画揮毫す。本日午下六時、石山基威に男子出産あり。

三月六日 辛卯 金曜 晴。 田辺幸七妻葬義。谷里子死去。

校外生稽古する。六人御出にて。午下、恭宮成らせられる。后の稽古する。来客、石山吉子、晨子、すま子。汲泉三十八号落成。

受信 房州いく子より見舞状。

*葬義(葬儀)

三月七日 壬辰 土曜 晴、風。朝雨、后晴、風。69(度)。

暖気頓に来る。午下三時頃、すり半鐘にて最近。火も見える。早速見二遣したるに礫川小学校と云。風、未申より吹あふりて、実に火子かぶり、煙にて向ふ見る事出来る。火ハ益甚し。沢蔵稲荷のむくの木に飛火して、出入のもの、御用心もはや御かた付が宜布と申来る。予ハ早く立退へしとして仕度と々のひ車に乗筈の処、漸沈火のよし申来、先々安心す。見舞客引もきらず、電話とにて大困雑也。

*出来る(出来ず) *むくの木(棕の木) *宜布(よろしく) *沈火(鎮火)
*大困雑(大混雑)

三月八日 癸巳 日曜 晴。予記 李子、谷氏葬儀二行。
けふハ天晴朗、長閑なる日にて心地よし。研究生十人の雅号を揮毫す。来客、姉小路延子、見舞に来る。

受信 大坂鯛天より返書来る。

三月九日 甲午 月曜 雨。

本日学校欠席。裏松みち子入門。

三月十日 乙未 火曜 晴。四十六(度)。

恭宮御稽古申上ル。后、寄宿舎にて研究生も稽古する。研究生六人え雅号を命す。

三月十一日 丙申 水曜 曇。四十六(度)。

教場えは六ヶ敷、図書室にて五年、四年、甲、乙稽古する。

一周間目、便通少しある。

*一周間目(一週間目)

三月十二日 丁酉 木曜 雨。

季候寒し。朝、宮城浜荻典侍様え使出す。皇后陛下え汲泉三十八号献上。浜荻様、新樹様、柳

内侍様えも奉呈する。長尾氏、井深氏来る。胃腸未だ全快に至らず、食事如例。

三月十三日 戊戌 金曜 晴。

校外生七人。午下、恭宮成らせられる。三回目の稽古もす。正子、朝より津田え行。夕景帰。来客、坪井博士夫人。宮城万里小路幸子様より御使にて、皇后陛下より金五千疋下賜相なる。浜荻さまより金千疋、御菓子、御すもし二重戴く。

朝少し便通ある。

三月十四日 己亥 土曜 雨。

泉会執行。予、不参。来客、津田栄子、大炊はや子、石川房子。雨終日降通したり。

三月十五日 庚子 日曜 晴。

休日なれと朝九時より教場に出て、五年生卒業製作画かゝせ、午下四時迄。

三月十六日 辛丑 月曜 晴。

休業す。本日朝、沼津御用邸え、皇太后宮え汲泉三十八号献上す。良子様え御菓子共小包にて出す。

発信 沼津御用邸え小包及書をよす。茂木氏桃井え。

三月十七日 壬寅 火曜 晴。

朝、恭宮ならせられ、御稽古申上る。又研究生製作にかゝる。

三月十八日 癸卯 水曜 彼岸入。雨、晴。

朝より教場に出て、製作画をみる。午下四時迄。長尾氏来り眈★(言十察)する。もはや病ハ全快。今後食事嚴重ニ養生事專一と言ふ。

*眈★(言十察) (眈察)

三月十九日 甲辰 木曜 晴。

朝八時より寄宿舎にて研究生の画をみる。午下五時迄引続き也。夜寒くて寐かねたり。寒中よ

りも甚し。

受信 沼津姉典侍より着の端書着。

三月二十日 乙巳 金曜 晴。

朝より校外生稽古する。大正博覧会開場日ニ付、府市国旗ヲかゝけ、大慶事之祝日也。本日を以て稽古納とす。

受信 内海静より祇園坊一箱着。

三月二十一日 丙午 土曜 春季皇霊祭。雨、晴。

朝より雨にて午下晴たり。生徒製作ニかゝる。夜、予、泰、正子と始テ白山下まで散歩して、シネリヤ五、六鉢を買て帰。

*シネリヤ(サイネリア)

三月二十二日 丁未 日曜 晴。

朝十時頃より、予、正子と高田馬場津田氏へ行、一月より始て。春の気色もどよのひて見るものみな珍らし。人出も多く、彼岸中の好天気と日曜とにて賑はしく、停留所にて津田栄子、子供四人共迎ひに来る。大悦限りなし。庭の桃花、盛にてうるはし。先昼食の饗応に逢て、新築の洋館をみる。物好によく出来て眺望絶佳なり。それより一同練兵場辺えつくし摘に行。ゆる／＼遊ひて帰、御合のものにて、四時帰。一同停留所迄送り来る。李子、五年生四十人を拉して大磯へ行。

受信 沼津姉良さまより御文及御菓子着。

*練兵場(練兵場)

三月二十三日 戊申 月曜 曇。午下四時頃より雨。

朝より生徒製作物ニかゝる。四年生より五年生の送別会あり。招待を得て、午前十一時より一同習字教室にて食事。畢而裁縫教室に余興数番あり。みなよく出来て面白し。三時帰。受信 大阪鯛天より肴の味噌漬着。

三月二十四日 己酉 火曜 雨。

朝より旅行之準備する。名古屋や安藤準成え絹本返却す。

受信 静岡角田より蒲鉾四枚、書状着。返書出す。

発信 岡山津田え小包、手紙出す。

*名古屋(名古屋)

三月二十五日 庚戌 水曜 雨。予記 愛国人会より総裁殿下、来ル廿九日より鳥取、島根、奈良え御台臨、午前八時三十分新橋御発車。

終日揮毫ものす。

受信 沼津姉さまより、いかの味噌漬着。

*愛国人会(愛国婦人会)

三月二十六日 辛亥 木曜 雨。

朝より式場其外、書画之製作、陳列、準備にいそがし。

発信 沼津御用邸姉さまえ返書出す。善光寺智栄尼えも。

三月二十七日 壬子 金曜 晴。

卒業証書授与式式場立派に出来る。午下一時執行す。職員生徒着席。来賓着席。一、校歌生徒一同。証書授与式。優等証書、勉学証。校長訓辞。卒業生答辞。生徒一同祝詞、岡田作子。卒業生総代、橋本艶子。来賓辻新次男、講演祝辞。唱一同唱歌。式全畢。来賓茶菓、后職員卒業生すもし。生徒一同え蒸菓子出す。四時頃全畢。

三月二十八日 癸丑 土曜 晴。

朝、職員卒業生集会、運動場にて撮影。十二時、予、高田慎蔵氏不動会二行。貴品書画幅を見て帰。卒業生謝恩会二臨む。裁縫場食事、鄭重なる食事ありて、習習室にて卒業生のみ余興ありて、皆よく出来て面白し。五時全畢。

*習習室(習字室)

三月二十九日 甲寅 日曜 晴。

朝七時、予、泰と同行。天晴朗、気分殊二よし。両国停車場にて志賀重昂氏二逢て妙、同行す。

八時三十分発車にて種々面白き談話。

(三月三十日、三十一日、記載ナシ)

(四月)

(四月一日〜四日、記載ナシ)

四月五日 辛酉 日曜 晴。

朝十時、青山御所参内。皇太后宮御奉伺申上る。御奥緋桃典侍様に御目にかゝりて、大宮様之御容態を伺、暫時御談話申上て退る。中山栄子さまを御尋申し候処、二月末御大病にて漸御床の上に御すはり出来る位に先々御快方ニ向はせられたるよしにて、御目にかゝらすして帰。閑院宮様え参り、両殿下赤十時愛国婦人支部総会に成らせられて御留守御見舞申上、季姫様御方にて種々御咄し申上、御昼食戴て帰。

*御すはり(御座り) *赤十時愛国婦人支部総会 (赤十字愛国婦人支部総会)

四月六日 壬戌 月曜 晴。

朝八時より始業式執行。式場に旧生徒着席。校長告辞、主事訓辞。畢、新旧初対面ありて校長、主事、李子之新入生ニ告る詞ありて、本年も新入生多数にて断に困却す。父兄之方も大勢にて、本日ハ昼迄にて相済。

四月七日 癸亥 火曜 雨。

火曜之寄宿舍稽古は未し。

四月八日 甲子 水曜 雨。

朝より課業例の如し。

四月九日 乙丑 木曜 晴、風。

朝七時十五分新橋発にて、両陛下、沼津御用邸へ行幸在らせられる。予等ハ昨日の新聞にて始めて安堵いたして、朝の授業。畢而、予、正子、弘と始めて大正博覧会見物す。工芸館、美術館を見て池の端賣店を見ながら徒歩して帰。豈料、皇太后御重態之号外しきりにて、帰宅して実に恐愕おく処をしらす。新聞記者詰かけて、皇太后陛下之御模様伺度とて夜十時頃迄。予、誕生祝来ル十二日之処、此御事にて祝賀会中止と定め、方々詔物断る。又招待状出先え端書にて断る。端書、すり物、弘十二時過迄かゝる。

来客、土井早苗 田鶴子と御礼に、時事新報記者、都新聞井家忠男、婦人世界記者、読売記者、国民記者、元田菊子。

*豈料(あにはからんや)

四月十日 丙寅 金曜 晴。

稽古始めをなす。皇太后宮、沼津午下七時三十五分御発、十一時三十五分新橋御着。此朝、端書出す。恭宮殿下、御休仰越らる。

*仰越らる(おほせこせらる)

四月十一日 丁卯 土曜 晴。予記 宮城参内、御奉伺申上て退出す。

早起。新聞待兼たり。号外にて、

皇太后宮崩御。

皇太后陛下、今十一日午前二時十分崩御在らせらる。廢朝被仰出。

大喪ニ付明十二日ヨリ三日間廢朝仰出サル。

宮内大臣男爵波多野敬直

右ニ付、生徒一同え申渡し、謹慎哀悼之意を表し、本日一日だけ授業を廢す。予、朝八時、増田義一氏を問ふ。氏、明日より世界一週之出立ニ付告別して帰。直に青山御所参内、御弔詞申上て、姉小路典侍を問ふ。久し賑にて御目にかゝり、種々太后様の御上のみ御咄しにて只涙のみ。御昼戴て退出。閑院宮に詣し、御息所に拝謁して久々の御咄し申上て帰。株式会社南北社大石英太郎氏。此社ニ賛成す。来客、韓国福田妻、暇乞に来る。

*一日だけ(一日だけ) *世界一週(世界一周) *久し賑(久し賑)

四月十二日 戊辰 日曜 晴。

朝より婦人画報女記者、又婦人画報有田、拝領物写真撮影に願来る。香山婦夫、暇乞来る。五島善子夫人。今朝、増田義一氏欧州洋行二付、李子、石山、新橋迄送別す。

*香山婦夫(香山夫婦)

四月十三日 己巳 月曜 陰、雨。

課業例の如し。明十四日遥拝式準備する。津田栄子、弘人と来る。今晚、弘、八時新橋発にて帰洛す。

四月十四日 庚午 火曜 雨、后晴。

朝八時集。式場祭壇ヲ設け、皇太后宮御霊代真榊を立て、職員生徒一同に遥拝式を行ふ。校長真榊を供す。李子及生徒総代、玉串をさゝげ、一同最敬礼。大塚主事、皇太后宮の御坤徳講ありて式全畢。生徒勤慎して休業す。来客、神戸又新日報記者二人、淑女画報記者金木九万。夜、散歩して帰。

*大塚主事(大東主事) *勤慎(謹慎)

四月十五日 辛未 水曜 晴。

課業例の如し。夜、散歩して帰。朝、墓参して帰。来客、元田美子、松崎愛子。

四月十六日 壬申 木曜 晴。

課業例の如し。朝、新聞二小松宮頼子殿下には御大患にて葉山より還御よし、新橋十一時五分二御着のよし承りて、十時過より新橋え御迎に参る。時間通りに御着。汽車より直に自動車に召れる。存しの外汽車の御つかれもなくて、御辞義も申上る。其まゝ橋場御殿え還御あらせられたり。予もつゝひて帰宅す。神戸又新日報佐藤駒太郎、短冊五枚渡す。大坂支部巽画会島田伊兵衛。天俄にかき曇り、雷鳴夕立甚し。五時頃、晴。時、角田真平氏来られる。不二雄縁談治定、廿二日結婚式を挙る。御大喪中二付極々質素と云。

発信 房州跡見え返書す。

*存しの外(存じの外) *御辞義(御辞儀)

四月十七日 癸酉 金曜 晴。

朝より校外稽古日にて堀田、松平、角田、川村の四人、午下、恭宮女王、其外七人稽古す。来客、野老山長角氏大連え付任二付、暇乞に来る。餞別金五円を贈ル。

*付任（赴任）

四月十八日 甲戌 土曜 晴。

朝より課業例の如し。午下早々、小松宮頼君様を伺ふ。御病状を承る。先御帰殿後御よろしき方にて大ゐに御満足被遊る。然し御拝謁ハ申上ずして去る。三条治子様を御尋申上たる処、護国寺え御参詣にて御不在にて、暫時にして帰。帰途、浅草観世音え参詣して帰。

四月十九日 乙亥 日曜 晴。予記 皇太皇后宮御追弔法式、芝青松寺にて午后一時。

朝、墓参して帰。午下早々、車にて芝青松寺に参詣す。薫風会之催し、会長堀田伯祭主。一時半、本堂にて読経。大勢僧侶出席。会長始一同御焼香致し、座を転して南座敷にて管長之説教アリて済。夫より万里小路え病氣見舞二行。昨日より今日に至りいたみ去りたるよし。守屋医師之診談にてハ全く胃のケイレンにてかく別案しる事なき由申されたり。五時帰。来客、伊藤富貴、中島銚子。

*診談（診断） *ケイレン（痙攣） *かく別（格別）

四月二十日 丙子 月曜 晴。

課業例の如し。四時頃より、予、正子と新田氏を問ふ。夕餐を呼れて神保町辺を散歩して帰。

四月二十一日 丁丑 火曜 晴。

朝、恭宮殿下成らせられる。后、図書室ニ而研究生稽古する。

四月二十二日 戊寅 水曜 晴。

課業例の如し。朝、墓参して帰。

四月二十三日 己卯 木曜 晴。

課業例の如し。午下より、予、正子と長尾氏を問ふ。暫時にして高田馬場津田氏を問ふ。洋館

新築もよく出来たり。已而帰、六時也。来客、山岡貞代の母、御礼に来る。朝十時より小松宮頼子殿下、御病御危篤の号外ニ而直ニ参邸、御機嫌伺候処、今朝より少し御見直しにて先々好き方にあらせられる御模様見上て帰。

四月二十四日 庚辰 金曜 晴。

校外稽古日。午下も教授す。

四月二十五日 辛巳 土曜 雨。

課業例の如し。午下、田村氏を問ふ。已而万里家を訪ふ。追々御病氣御快方にてみなく安心々々。六時比帰。

四月二十六日 壬午 日曜 晴。

朝来客、万朝記者服部桂子、女学世界記者川崎三子。午下早々、予、正子と代々木石山大炊君を問ふ。久々にて夕餐を呼れて帰。

四月二十七日 癸未 月曜 晴。

課業例の如し。午下、浅草報恩寺ニ参詣す。親鸞上人六百五十回御遠忌ニ付、説教三席聴聞す。久々にて稻田喜美子ニ逢ふ。御時に逢而帰。

*御時 (御斎)

四月二十八日 甲申 火曜 雨。

課業如例。恭子女王御稽古申上る。凶書室稽古もする。

四月二十九日 乙酉 水曜 晴。

課業例の如し。青柳讓氏来る。

発信 遠藤貫三郎え書画出す。

四月三十日 丙戌 木曜 晴。

課業例の如し。来客、秋元八重子夫人、津田弘視。

(五月)

五月一日 丁亥 金曜 晴。

朝、校外生の稽古畢。午下、恭宮成らせられる。又研究生の稽古ありて、三時済。

五月二日 戊子 土曜 曇。

課業例の如し。畢而、午下二時十分の両国発汽車にて、予、李子と同しく佐倉に行。本日は少々の雨にても奮発するつもりにて行。佐倉に着。堀田和子さま、停車場にて御迎ひ下され、車にて行。此時小雨ふり出したり。後室伴子様も御悦ひにて、先御書齋にて久々の御物語などして後、御庭の牡丹を見る。けふこそ見頃と言。実に古木にて、高き、早きあり。花も大りん、幾株あるか、百廿本位と云。みな絵にかける姿なり。是こそ花の富貴也と賞歎やます。御庭所々散歩する。ゆるくと一泊す。夜中、雨と風なり。牡丹の為に大るにかなしむ。

*大りん(大輪) *賞歎(賞翫)

五月三日 己丑 日曜 雨。

朝飯過て、風雨の牡丹をみる。実にきのふみし花と大るに異なり。午下早々、伴子様同道にて薫風会に集る。堀田正倫君の御墓に参る。やかて説教はしまる。曹洞宗大学教授高階瓏仙師之金剛経之説教を聞く。畢而堀田伯え帰。又牡丹をみる。雨止て花見所あり。四時急行にて帰。

*きのふ(昨日)

五月四日 庚寅 月曜 晴。

課業例の如し。

五月五日 辛卯 火曜 晴。

朝、恭宮成らせられる。次、図書室研究生授業、昼迄。

五月六日 壬辰 水曜

朝、課業例の如し。

五月七日 癸巳 木曜

課業例の如し。

五月八日 甲午 金曜 晴。

金曜稽古日。朝より午下三時迄にて済。

五月九日 乙未 土曜 晴。

朝の課業畢る。午下一時半より三条故公美公御百ヶ日二付、護国寺ニ参拝す。閑院宮御二所様も成らせられる。玉串を捧けて三時過帰。帰途、河田氏を訪ふ。

皇太后御追号 昭憲皇太后

と号外を以て告示せられたり。

五月十日 丙申 日曜 晴。

朝、散歩して帰。終日揮毫ものす。

五月十一日 丁酉 月曜 晴、雨。

朝より課業畢る。午下一時半頃より黒田侯に上る。茂宮様、其後始而拝謁す。御悦一方ならぬ事、何くれと御物語遊して、老女、中老、わかにも面会す。茂宮様、御庭御案内遊されて、実には市中とも思はれぬ御広き事、山あり池あり、老樹森々として結構限りなし。鴨場とか、水鳥沢山かひ付あり。所々に御茶屋、四ッ堂等様々也。鄭燭色々、深山うつき、すゝかけ、八重藤などとらせられて、又大広間にて種々御はなし等にて御合の物戴て、御暇申上る。御隣の九条公を御問申上て、恵子様にかゝりて種々御咄し申上て帰。

受信 房州跡見より蚕豆一俵着。出雲わか芽着、太田氏。

*かひ付あり(飼付あり) *鄭燭(躑躅) *深山うつき(深山卯木) *すゝかけ(篠懸) *わか芽(和布)

五月十二日 戊戌 火曜 晴、夜雨。昨夜、大雨大雷あり。

朝、恭子女子御稽古に成らせられる。図書室研究生稽古する。午下、伝馬町両大師え参詣する。安井僧正久々にて面会。説教聴問す。五時帰。恭宮様、茂子様御稽古日、毎火曜午後一時よりと申上る。

*恭子女子(恭子女王)

五月十三日 己亥 水曜 晴。 予記 静座法、本日より河田氏にて始む。

課業例の如し。午下早々、河田氏え行。今朝、新聞にて新橋停車場之大椿事。十二日午後横須賀よりの急列車、五時一分轟前一直線に改札口の木柵ハ粉微塵に破損したり。其割には死傷少しと云。

*五時一分轟前一直線に(五時一分轟然一直線に)

五月十四日 庚子 木曜 雨、晴。

課業例の如し。揮毫ものす。広島県門田邦太え、島根県太田紋三え、伊予小冢野直吉え、丹波土田四郎え、岡山片山雅孝え、揮毫もの郵送す。

五月十五日 辛丑 金曜 雨。

校外稽古日、午前分済。午後の稽古も済。名古屋や市村手陶英より短冊挟及色紙、たにさく着。発信 岡山津田え帛紗郵送する。

*名古屋(名古屋) *たにさく(短冊)

五月十六日 壬寅 土曜 雨。終日雨ふり通したり。

課業例の如し。正子、代々木え行、一泊。夜、石山みさをの母、明朝帰国ニ付暇乞に来る。発信 名古屋や村手氏え返事出す。

*名古屋(名古屋)

五月十七日 癸卯 日曜 雨。

午下早々、芝薫風会ニ集る。北野師僧、韓国より帰られて講話あり。二座聴問して帰。帰途、閑院宮え参り、妃殿、御子様方ニも拝謁し、暫時御話し申上て退く。夕景雨やみて雨後の景色よし。来客、杉謙二、増田浪江。

五月十八日 甲辰 月曜 晴。

課業例の如し。来客、荒井真子、八重 徳田、熊木徳子。
発信 岡山津田より、まなかつほの味噌漬一桶着。

*まなかつほ(真魚鱈)

五月十九日 乙巳 火曜 晴。

朝より図書室授業、昼迄に畢。午下、恭宮成らせられる。三時迄。朝、墓参して帰。

五月二十日 丙午 水曜 晴。 予記 来ル三十一日午下二時より宮本小一氏招待。

課業例の如し。午下、揮毫ものす。寄宿舎紀念日二付、此夕食堂にて挙家一同饗応二逢ひて賑々敷盛也。深更微震あり。在漢堡奥田照子よりはかき着。

*漢堡(ハンブルク) *はかき(端書)

五月二十一日 丁未 木曜 雨。

課業例の如し。午前より津田栄子来り、予、正子と三人連にて三越え行。ゆかたの買ものして帰。大坂江之子島西町七大正国風会より依頼之絹本返却。出雲国大東町山本恒二、短冊二枚返却。

*ゆかた(浴衣)

五月二十二日 戊申 金曜 晴。

朝より校外生授業畢る。午下研究生、三時畢。それより青山御所に参る。御暇乞申上て御局姉小路典侍様を伺ふ。折よく御下りにてしみくと御談語も有。御合のもの戴て五時過退出す。青山御所近傍、旗、幕等すへて準備出来たり。六時帰。来客、永倉祥子、其母と御礼ニ来る。時事新報願短冊四枚渡す。

五月二十三日 己酉 土曜 晴。

朝、課業畢。来客、清水初子。京都大聖寺尼渡辺祖琉、久々にて面会。学校參觀案内して、寄宿舎にて御合のものを出す。五時頃帰。本日は泰の誕生日にて、挙家及塾の小学生も呼ひて賑

々敷食事ありて、みな散歩して白山下迄行て帰。大坂跡見法専より、そら豆着。夜十時頃より本郷元町火あり、十二時沈火。

*沈火（鎮火）

五月二十四日 庚戌 日曜 雨。

午前二時頃より雨ふり出したり。本日ハ御大葬、遥拝式奉行す。朝、職員生徒一同集会。運動場式場ニして、此時雨止、空晴たり。第八時、最敬礼遥拝す。八時号砲（一砲）ノ時、一同青山に迎ひ遥拝ス。続テ弔砲、又寺院ノ鐘ツキはしめたり。次、一同奉悼歌を唱ふて全畢。昨廿三日教育会にて、大速重善氏代理。

頌状 勲六等跡見花蹊君

多年女子教育ニ従事セラレ其功鮮カラス。仍テ本会評議員会ノ議決ヲ經テ帝国教育会功牌ヲ贈呈ス。

大正三年五月廿三日

帝国教育會長正三位勲一等男爵辻新次

又夕景七時頃より雨降出して、八時前又止。

*迎ひ（向ひ） *弔砲（弔砲） *大速（大速）

五月二十五日 辛亥 月曜 晴。

午前二時、代々木御発車号砲迄、金剛經誦誦して臥。朝より揮毫ものす。小松宮御使坂本太郎。発信 千駄ヶ谷徳川公え画出す。静岡新報え扇子及小絹出す。

*号砲（号砲）

五月二十六日 壬子 火曜 晴。

朝より終日揮毫ものす。

五月二十七日 癸丑 水曜 晴。

朝、課業例の如し。午下、河田氏え行。帰途、柳町田島氏え行。安井大僧正招待にて法筵開かれたり。三座聴聞する。夕景帰。正子、代々木石山え行、一宿。

五月二十八日 甲寅 木曜 晴。

課業例の如し。午下二時より伝馬町両大師ニ於て昭憲皇太后之御追悼御法要奉行せられ候ニ付参拝す。後、安井大僧正之法話ありて八戒齋さすけられ候。五時後帰宅す。此夜一時頃より小石川安堂坂辺失火にて火盛也。三時沈火。近辺見え見舞出す。

*小石川安堂坂（小石川安藤坂） *沈火（鎮火）

五月二十九日 乙卯 金曜 曇。

朝より校外稽古日にて、午下三時畢。夕景散歩して帰。来客、津田栄子。

五月三十日 丙辰 土曜 雨。朝より雨さみたれの如し。

朝の課業畢る。午下揮毫す。

発信 土井氏え返事。

*さみたれ（五月雨）

五月三十一日 丁巳 日曜 晴。

はしめてふらむねる単物を着る。予、李子と同しく三越へ行。西郷氏男子出産ニ付、産衣紹友仙を求て祝ものにする。こゝより李子横浜へ行。予ハ三銀にて土瓶をもとめて李子と別而帰。午下二時より巢鴨宮本氏え約の如く行。素謡会のよし。晴子の舅、賀、至て謡趣味の人にて春秋に謡会を催され候よし。漸第一斯明ニ付本日催されたる也。宝生流三人、外に近隣の人にて石川、伊藤、予、観世流にてはしめ百万、俊寛、其外小謡物、或ハ仕舞等にて頗る盛也。食事大馳走にて八時頃済而帰。

閑院宮より御使候。陛下御戴之御料理、先帝に御備の御菓子等いたゞく。

*ふらむねる（フランネル） *紹友仙（紹友禪） *第一斯（第一期） *御備（御供）

（六月）

六月一日 戊午 月曜 曇。

朝の課業例の如し。夕景より小雨ふり出したり。来客、津田栄子、弘人と。此日よりふらねる着初る。

*ふらねる(フランネル)

六月二日 己未 火曜 雨。終日雨ふり通したり。

朝、図書室の稽古、昼迄畢る。午下一時より恭宮、茂宮成らせられて御稽古申上る、三時迄。

六月三日 庚申 水曜 雨。朝雨にて、八時頃より雨止、風起る。風、夜ニ入て益々甚し。暴風。

課業例の如し。午下より河田氏え行て二時帰。正子、代々木え行。来客、長尾氏。

受信 神戸笹木清より書至。

発信 名畑え小包出。大宮智栄えも。

六月四日 辛酉 木曜 晴。80(度)。

朝より課業例の如し。午下揮毫ものす。夕景湯島辺え散歩して帰。

六月五日 壬戌 金曜 雨、晴。

朝の校外稽古畢る。午下研究生の稽古する。来客、大炊駒子、津田栄子、小林鐘吉。万里小路より快気祝もの来る。夕景散歩、白山上まで。

六月六日 癸亥 土曜 晴。予記 六日、七日両日午前九時より后四迄、展観、美術学校文庫ニ於て。

朝の課業畢る。十一時より美術学校文庫展観ものをみる。中華国民廉泉氏所蔵の書画、有名之ものにて我國の同好者に示されたるなり。明末の名士王建章、張瑞図、倪元★(王十路)等詩書画、某昌之蘭亭之書など実に天下の逸品なり。みなとのなるもの、二時間余くり返し観る。正木校長、下条氏、黒木氏、大ゐに世話しくれられ、別室にて南田花卉着色帖をみる。心地よし。夫より浅草観世音に参詣して帰。

*某昌之蘭亭之書(其昌之蘭亭之書)

*のと(咽)

*なるもの(鳴るもの)

六月七日 甲子 日曜 晴。

朝より金地衝立揮毫ニかゝる。来客、下瀬未亡人、井田春江。終日揮毫ものす。正子、市川に行。五時頃帰。

三溪西郷氏より出産の祝返しもの、使来る。

六月八日 乙丑 月曜 晴。

課業例の如し。橋岡始めて来る。李子も稽古始める。

六月九日 丙寅 火曜 雨、晴。予記 本日午後二時、海事協会ニ於て定式総会。

昨夜よりの大雨にて午前二晴る。図書室稽古畢る。午下、恭宮、茂宮成らせられる。三時還御。草書字典二冊代金七円也。隆文堂より求ル。

六月十日 丁卯 水曜 晴。

朝、課業畢る。午下、河田氏え行。二時過帰。橋岡来る。来客、幸島菊子。朝五時より散歩して帰。

六月十一日 戊辰 木曜 晴。

朝、課業畢。朝五時より散歩して帰。午下、揮毫ものす。五時頃より、予、李子と五番町万里小路正秀殿逝去ニ付御悔ニ行て帰。泰、小田原辺ニ行。

六月十二日 己巳 金曜 晴。

校外稽古日。朝の分畢る。来客、小貫俊光氏、午下稽古、三時畢。朝の散歩して帰。

六月十三日 庚午 土曜 晴。

朝五時、散歩して帰。課業例の如し。畢而、昼餐ハ学校よりの饗応にて、当日之職員一同さほう室にて午餐を共にす。本日泉会来会者多く盛大なり。講演、下田次郎氏、大正之婦人。次ニ小貞水の講談あり。畢而、運動場にて食卓をならへて、茶菓、すもし、せんへい等にて一同語樂。五時退散。両陛下桃山東陵行啓御発輦。天気晴朗。

*さほう室(作法室) *せんへい(煎餅)

六月十四日 辛未 日曜 朝雨、已而晴。

朝五時起。雨、雷を交而甚し。相川氏より依頼の尺八絹本一枚揮毫、外三枚共落款す。午下早々、芝万里小路家二行。浜荻典侍、服にて下られ候二付、久々にて御機嫌伺て暫時旧をかたりて帰。帰途角田氏を訪問して、又石山氏を問ふ。五時帰。夜、散歩す。

六月十五日 壬申 月曜 晴。

朝五時より墓参して帰。課業如例。来客、メール社東京支社編輯部記者中村安得。中華国民廉泉氏、書及画、小包にて出す。岡山跡見三治郎え書一枚小包にて、は端共出す。小貫俊光、画を渡す。茂木松子、桃井浜え。

受信 下総なめり河町桜井常吉より枇杷一籠着。

*は端(端書) *下総なめり(下総滑)

六月十六日 癸酉 火曜 晴。

朝、散歩して帰。朝、図書室研究生の稽古畢る。午下二時より恭宮女王、茂子女王成らせられ、四時迄御稽古上る。来客、井出百合子、浜むし玉子到来す。

六月十七日 甲戌 水曜 雨。

朝、課業畢る。午下、河田氏え行て帰。

受信 岡村尚子より桜桃二箱。

六月十八日 乙亥 木曜 晴。

朝、課業畢る。如約、志賀重昂氏、十二時来られ、昼餐饗応す。御相伴、予、李子、泰、大東氏、久々の馳走にて大ゐに喜悦一方ならず。食事畢る。式場にて、三、四、五生徒集めて講演ありて、実快活、皆喜色あふれたり。此間一時間にて畢る。直ニ帰られる。来客、下瀬氏。受信 志村勘蔵より小絹一枚、甲斐絹一反着。

六月十九日 丙子 金曜 晴。

朝、墓参して帰。校外稽古日、八時より十一時迄。午下二時より研究生稽古する、畢。絹本山水揮毫する。中華国民廉泉氏より端書にて礼状着。

発信 静岡榛葉藤兵衛え。山梨志村勘兵衛え。山形岡村尚子、愛知扶桑新聞え。

六月二十日 丁丑 土曜 晴。

朝の課業例の如し。午下より牛込廿騎町大概十三氏新築披露囃子会二行、数番を観る。晡時帰。

*大概十三氏（大概十三氏）

六月二十一日 戊寅 日曜 雨。

午下早々、予、李子と青松寺薫風会二行。法座二番聴聞して帰。堀田後室寄宿舍二来られて晚餐共にして種々語り合。実ニ結構有かたき事。此日午時、弘、京都より帰省す。正子、寿子、新富劇二行、夜十二時帰。

六月二十二日 己卯 月曜 曇。

朝より課業畢。

受信 浦雪子一周忌志饅頭到来。岡山跡見三次郎より書至。

発信 茂木松子え。大宮智栄尼え。

六月二十三日 庚辰 火曜 晴。

朝の研究生、図書室にて稽古す。午下の分。恭子女王、茂子女王の御稽古上る。

六月二十四日 辛巳 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下、河田氏え行而帰。来客、閑院宮より御使、半季分御目録御下賜なる。

六月二十五日 壬午 木曜 晴。

皇后宮御誕辰二付、謹而休業。朝より揮毫ものす。宮内省御内儀万里小路幸子様より、汲泉三十九号二冊、陛下え例の如く献上願上る、陛下より金五千疋御下賜なる。来客、九条公より御

使信濃小路氏、中元御目錄御品物等下さる。

六月二十六日 癸未 金曜 曇。

本日、皇后陛下博覧会行啓なる。朝、散歩して帰。朝の稽古畢る。午下の研究生稽古する。朝、主事大束氏来る。学校より返金五百円請取。此金定期預にする。跡見弘より「(ママ)」の名儀受信 江田島久岡朝より。

発信 静岡角田雄五郎え書画を出す。愛知の三浦七右衛門え画を出す。

(六月二十七日、二十八日、記載ナシ)

六月二十九日 丙戌 月曜 晴。88(度)。

朝業如例。午下二時より高階瓏仙師を迎えて生徒ニ講演聴せる。四時迄二時間、面白く生徒もよく聴聞す。

六月三十日 丁亥 火曜 晴。90(度)。

朝、研究生寄宿舎稽古畢。午下、恭子、茂子両殿下成らせられる。四時半頃より小松宮え参る。昨夜、御入棺式在らせられて、御座敷之御座所に祭場を設けられたり。本日より御椅子ニ相成る。東伏見宮両殿下、梨本妃殿下成らせられる。予ハ御夕飯戴て帰。大坂島田伊兵衛来、閨秀画端書到来。

受信 但馬国城崎町鈴木別荘にて竹中糸子より、はかき沢山着。

*はかき (端書)

(七月)

七月一日 戊子 水曜 晴。90(度)。

本日より授業半日となる。朝七時半始る。朝業畢る。午下、河田氏え行て帰。扇子揮毫す。陛

下より御下賜金壺万疋、予より校友会へ寄附する。

受信 岡山三次郎より書至。善光寺保存会より記念画帖着。

発信 岡山三次郎へ返書。元神津竹中糸へ返書。

七月二日 己丑 木曜 晴。85(度)。予記 小松宮玉串金五円備(一供)える。

朝、散歩して帰。朝の課業如例。

小万柳堂劇蹟一冊

右代金八円五拾銭特価之分、審美書院へ申込、発行之上代金引換之事。

午下五時頃より志賀重昂氏を問ふ。四日米国へ洋行二付、御暇乞旁餞別画扇を持て行。皆在宅にて夕餐を呼れて帰。

七月三日 庚寅 金曜 晴。90(度)。

早起。散歩して帰。校外生授業、朝と午下と畢。来客、角田氏。

受信 名古屋や角田より書、及なるみ二反着。

* 名古屋(名古屋) *なるみ(鳴海)

七月四日 辛卯 土曜 晴。90(度)。

早起。散歩して帰。小松頼子殿下御葬儀参列可致を、この大暑気二付御断申上ル。小早川式子様より御電話にて、武者小路万子病氣重体申来られ、早速赤十字病院二行。毛利家よりも大せい御出向にて、皆々涙なからにこの処御命御取とめ遊され度よし大く御心配之最中、万子様二御目にかゝり、誠に大悦にて御容体なとたしかに御申にて、私の考にては御命には御別条なき様二被存候。此日は御食事も御好みにてよき御出来と存候。暫時にして帰。夜、正子と神田辺へ買物二行て帰。

*大せい(大勢)

七月五日 壬辰 日曜 晴。90(度)。此日の蒸暑さ、実に堪かねたり。雨ふりかねたるに

や。

朝四時起。涼風ふきて一しほの心地よき朝也。七時より求道会二行。夏季講話教行信証、八時より十一時迄聴聞して帰。この時小雨ふり出して、直二晴る。正子、市川え行。来客、安藤喜一郎。津田弘視、子供三人と来る。酒包星のより梅干一桶着。

*酒包(酒包) *星の(星野)

七月六日 癸巳 月曜 晴。

朝の課業例の如し。故仁井田たか子え絵灯籠手向る。井上頼国葬送、代理大束氏え。松屋より誂のタヲル三枚入三十三箱持参す。

発信 星野氏え小包出す。

七月七日 甲午 火曜 雨。 予記 本日より試験かゝる。

昨夜よりの始めての雨にて涼気を催したり。朝の散歩心地よし。朝の研究生教授畢る。午下、宮殿下成らせられる。御稽古上る。西三条伯より御知らせあり。武者小路万子さま今朝七時御死去のよし也。驚入る。来、鷹見氏、万里小路伯、石川房子。夜も雨ふる。

*来(来客)

七月八日 乙未 水曜 晴。 70(度)。

朝、課業例の如し。午下、河田氏え行。それより武者小路え弔詞申上る。実に残念限りなし。来客、玉枝。本日叙勲之日二付、職員一同三十三人えタヲル三枚箱入を贈ル。一箱八十六銭ツ。

七月九日 丙申 木曜 晴。

朝、散歩して帰。授業例の如し。来客、弘道会記者田中久。

七月十日 丁酉 金曜 小雨。 92(度)。 予記 校外生、本日より休業。

朝の稽古、本日にて畢。午下之研究生稽古も畢。本日之熱気九十二度、風もなくて実にむしあつく、夜に入っても堪られぬ事、是第一也。来客、日本弘道会書記本間和一、橋本元治、面会。

弘道会館寄附依頼ニ付金三百円承諾す。但シ月五円ツ、向五ヶ年間之約定。

七月十一日 戊戌 土曜 雨。

朝の授業例の如し。本日にて夏期業畢。所々中元之配物にいそかし。来客、松平鞆子、長町いさの母。夕景より李子と同道にて千よ田橋常盤木へ行。菓子品々見て眺て帰。雨中、泰、銚子より帰宅。

賞勲局よりの召にて石山代理参局す。

勲六等跡見花蹊

明治四十五年七月、東京市小石川区窮民え白米三十八石賑恤候段、奇特ニ付、為其賞、

銀杯壹箇下賜候事

大正元年十月十四日

賞勲局総裁從二位勲三等伯爵正親町実正 印

閑院宮様より御文にて季様御病氣御よろしからすとて御しらせ相成候。

*いそかし(忙し) *千よ田橋(千代田橋)

七月十二日 己亥 日曜 小雨。

朝九時より閑院様え参殿して、季の宮御容体伺候处、昨日より時候頓に涼しく相成候ニ付はしめて御食気付遊はされ、今朝よりも先々御よろしき方ニあらせられ、一寸見上参らせたるに、御あんし申上るほとにもなきかと存しられる。御息所様にも拝謁して種々御咄し申上而帰。それより青山御所に参りて権典侍様と暫時御咄し申上る。照憲皇太后の御遺物御写真帖三冊戴く。二時頃御暇申上而退去す。

*御遺物(御遺物) *御あんし(御案じ)

七月十三日 庚子 月曜

朝の課業畢る。午下、閑院宮様より季宮御病よろしからす、直ニ参れとの御電話にて、取敢ず参殿して伺ふ。昏睡の御模様にて又ははつきりと被遊、御背中など御さすりいたしたるは御ぞんしの様にもありて、可驚事ハよもやと被存、夜に入て退りぬ。

七月十四日 辛丑 火曜 晴。 予記 本日より研究生休業。

朝、散歩して帰。課業、寄宿舎研究生の、本日より終業す。閑院宮様より御電話にて直ニ参れ

との御知らせにて取ものも取敢ず参殿する。きのふよりハ今日と御脳もあらせられたれと、至而御静にて御くるしみの御模様ハとんとなくて、御口ハとんと御聞け被遊す。御息所様も此様子にては二、三日はもちこたへも有へければ、一先帰りてやすみくれ様との仰に、夜に入て退りぬ。予ハ昨暮より御病氣御平論の御祈祷怠らず、観世音に心願をこめたる故、心にハ急度御平快の事と信し居りぬ。

*聞け(利け) *平論(平癒)

七月十五日 壬寅 水曜 晴。

朝、散歩して帰。また、閑院様より御電話にて可参様仰せにて、直ニ参る。ひとく御脳の御模様も見え給はぬ、白人目にてもや。赤十字院長平井氏、阿久津博士、新宮氏、看護婦四人にてカンプル中謝、サンソ注入、滋養中謝と引きりなしの御手当のみ也。先々此分にてハ今日も先々昨日と御同様とて退りぬ。予、夕食致し居りたる時、閑院様より又季宮様御変調之電話にて大急ぎ参る。御ケイレンにて皆々驚たるとて、夜十二時退る。

*白人(素人) *中謝(注射) *サンソ(酸素) *中謝(注射) *ケイレン(痙攣)

七月十六日 癸卯 木曜 晴。

朝よりも閑院様え参り、季宮様御側にて御看護申上たるに、少し御静かにて一先帰宅す。又午後四時頃、愈御変調の趣御電話にて直ニ参る。刻一刻と御儉悪の御模様にて、段々心臓麻痺にかゝらせられ、本日十一時廿分薨去あらせられたり。此時、陛下より叙勲二等宝冠章賜られたり。世にもこのなけきのあるとはおもはず、せきくる涙と、(め)かね、御名残の尽せぬ有さま。十七日午前〇時十分也。午前二時夜、李子と退り帰りぬ。廿日頃の月、雲間に物すごく澄渡りぬ。

*儉悪(険悪)

七月十七日 甲辰 金曜 晴。夕景小雨あり。

閑院宮季子女王様愈御薨去ニ付、学校にても主事はしめ一同協義する。未御発表ニは至らず。本日にて全部試儉畢る。李子、午下閑院様え参りて御通夜する。予、五時より参りて御宝前に侍りて御水を捧ぐ。御弔詞申上る。十時退る。昨夜の思ひに引かへて、たゞ御残念々々に

のみ打しめりぬ。

*協義(協議) *試験(試験)

七月十八日 乙巳 土曜 陰。

閑院季宮薨去二付、生徒一同謹て学業を廃す、本日一日のみ。此日も宮様え参りて参拝す。夜二入て退る。李子、御通夜する。

七月十九日 丙午 日曜 晴。朝五時頃一寸小雨、已而晴。本日の暑さ、先第一等と覚ゆ。

92(度)。

朝、墓参して帰。午下三時より、約ありて閑院宮え参る。茂木栄子先在て、御上え御よし申上て、御霊前参拝さしゆるされ、拜謁もありて、大ゐに有難かりて退る。予、李子より花輪御霊前え備える。夕餐戴て退る。

*備える(供える)

七月二十日 丁未 月曜 土用之入。晴。90(度)。予記 本日より休業。

朝、残りの試験もありて十時済。講堂にて生徒全部集、終業式執事。休業中の講話、校長之誥別、次大東氏、次長尾氏衛生談、廿二日閑院宮季子殿下御葬儀拝礼之件二付種々申聞かせる。来客、堀田伴子様。

受信 支那佐藤朝恵より文及筆墨着。直ニ返書す。

七月二十一日 戊申 火曜 土用二郎。晴。87(度)。

朝四時起。散歩して帰。来客、姉小路延子、姉小路豊女、山根太郎。閑院宮御電話にて、昼飯早々参殿ス。季子女王殿下表え御移り相成て参拝ス。朝、石山基威学校使にて御霊前え真榭料金拾五円捧げる。

七月二十二日 己酉 水曜 三郎。晴。92(度)。

季子女王殿下御葬儀。朝六時半御発引。わか生徒全部ハ豊島岡近辺に正列して奉送す。予、李子と七時前より豊島岡に参列す。

*わか(我が)

七月二十三日 庚戌 木曜 四郎。晴。94(度)。

朝、散歩して帰。

七月二十四日 辛亥 金曜 五郎。晴。96(度)。

朝、散歩して帰。来客、日本正業新聞小石川支局記者大塚楽山、鳥尾智勢子。帝国冷蔵株式会社より家庭形第三号 代金拾九円也を買速める。夕景少し雲起りて今や雨かと待ちに待たる甲斐もなく、少量の雨ふり出して直二晴。学校職員たち、日々の点数調皆済したるに付、応撰室にて昼餐洋食を饗す。人数拾七人也。先々暑気を払ひたり。

発信 大宮様え小包出す。

*日本正業新聞(日本商業新聞) *買速める(買求める) *応撰室(応接室)

七月二十五日 壬子 土曜 六郎。晴。94(度)。

朝五時より散歩して帰。来客、荒井真子。正子、暑中見舞二行。日々の暑さに氷払底と成て、冷蔵函え入ル氷、月三円でも御約束出来ぬと云。此夕、李子に誘れて子供共七人連て大博イルミネション未たしらす、始めて見る。実に極楽浄土もかくやと計驚たり。ケーブルカーに乗る。是処も未曾有の人出にて、いつに乗込とも分らぬ人に押れ〜て四十分位もまちなから、忍はすの池中にて仕掛及打上ヶ火花数本を観る。漸乗込て四方の夜景一目して、実に盛也。精養軒にて一息する。立錫もなき満員ながら、漸卓に有付て休息する。品物売切にてアイスクリームもなく、漸桃とサイダにてのをひやして、又散歩する。入場者廿万余。夜の分実に十五万ハたしかと思ふ程の盛況也。帰途に付ても十五台ほとも満員にて、半途ハ歩行して帰、十一時也。少雨勿而晴。

*忍はすの池(不忍池) *のと(咽) *勿(忽)

七月二十六日 癸丑 日曜 晴。90(度)。七郎にて漸雷雨ありて喜ひ限りなし。

朝六時半より車にて岡田和三郎氏二行。耳療治を受けて、閑院宮え参候す。季子殿下の御十日祭。八時御靈殿御祭典御執行あらせられる。予も玉串を捧ぐ、李子も。九時半退く。豊島岡えは得参らず、御免を蒙む。予も年々土用三郎の三日間雨なければと祈願致せしも、三日のてりはとてもなくて必雨降るものなるは、漸七日目にて雨をみる、実に可喜、豊作可喜。

*てり(照り) *なるは(なるに)

七月二十七日 甲寅 月曜 晴。80(度)。

朝四時起。李子に誘れて五時より六人連にて上野不忍に蓮花をみる。朝の涼風先爽快を究む。徒歩して行。花ハ今を盛とみる。弁天堂より観月橋を渡りて心地よし。帰途電車にて帰。朝六時、大博に人詰かけて盛況を究む。本日も福引のよし也。来客、牛込林喜美母、中井鏡。返書出す、俵松子、今村栄子、川出いわ、田宮林子、梅野くら子、牧野柳子、跡見三次郎。

七月二十八日 乙卯 火曜 細雨。75(度)。

朝七時半より車にて土手三番町和田氏え行、療治して、島田氏を問ふ。三郎様、信子様にも面会して暫時談話して帰。本日より軽井沢え避暑旅行之由也。帰途、中村元嘉氏を問ふ。久々に種々の咄して帰。

発信 返信、土井氏、茂木松子、山登きみ、森島フキ。

*和田氏(岡田氏)

七月二十九日 丙辰 水曜 晴。90(度)。

またもとの炎熱やくか如し。堪かねたり。来客、谷本きく子、福岡より久々にてきたる。本日は驟雨と云ふ事にて待たる甲斐なく好天気也。

発信 返書、朝鮮福田氏、大坂吉宗栄、静岡松山しのぶ、上田鶴子。

七月三十日 丁巳 木曜 晴。99(度)。本年第一の炎熱甚し。

明治天皇第二年御祥忌日。一昨年此頃の事を偲ひ奉りて感に堪えず候。朝電話にて、房州より重威、幾子、上京のよし申来る。それ〱用意して、午下一時、弘事、車三台引連て靈岸島へ行。三時、重たけ、いく子、無事着。

七月三十一日 戊午 金曜 晴。98(度)。

朝、岡田氏行。不在にて治療を受すして帰。

(八月)

八月一日 己未 土曜 98(度)。

朝、散歩して帰。岡田氏へ行。姉小路良子様より御吹聴、

私事、特旨を以て従三位に被叙、本官ヲ免ズ。典侍ニ準せられ、其御取扱を蒙り、元皇太后宮職残務取扱仰付らる。

八月一日

早速御悦の手紙出す。本日午下五時より、李子、外に同行者もありて松島遊覧ニ出かけたなり。発信 暑中返書、九軒出す。

八月二日 庚申 日曜 98(度)。

此朝八時半汽車にて銚子行。泰、寿子、靖子、ヒサ子。岡田氏へ行。来客、跡見玉枝。実ニ此夏の炎熱三十年来と云。然し水道断水ハ未だ不申越。水源ニは雨も降りたるならんか。

民草ハ焼ふす計この暑さ一雨ふらせ水くまりの神

天を仰き地にふし雨をいのりけりこの民草をよみかへらせ

発信 暑中返書出す、十一軒也。

八月三日 辛酉 月曜 晴。98(度)。

朝、散歩して帰。

発信 暑中見舞返書、十軒出す。

八月四日 壬戌 火曜 晴。98(度)。

朝、散歩して帰。八時より岡田氏二行。それより閑院宮へ詣して、御神靈に参拝して手向うた奉る。両殿下、小松宮頼子殿下御四十日祭二付御参拝中、暫時にして退出す。

八月五日 癸亥 水曜 晴。88(度)。朝、涼氣を覚ゆ。十時頃より又暑氣加はりたり。

早起。散歩して帰。十時より豊島岡にて御墓前二十日祭ニ参拝す。御山迄自動車にて御迎ひいたきて御休憩所迄帰、直二車にて帰。弘、山根太郎子と松島遊覧ニ出立す。来客、棚はし總子。

*棚はし總子(棚橋絢子)

八月六日 甲子 木曜 晴。96(度)。今日のこの暑さには実に堪やらぬ。熱甚し。

早起。散歩して帰。来客、長尾かす子。予、午下三時より岡田氏へ行。先生旅行二周(週)間不在。もゝ子、飯坂花水館より端書着、今夕六時頃上野着のよし申来る。暑氣実に甚し。雨の催しなくて困却す。来客、相元八重二氏、画を願出ル。今夕七時、李子無事着。来客、石山吉子、大炊はや子。
発信 十八軒え返書出す。

八月七日 乙丑 金曜 晴。90(度)。

(コノ日、記事ナシ)

八月八日 丙寅 土曜 晴。99(度)。

朝四時起にて、重たけ、いく子出立。六時四十分出帆。五時、無事出立す。正子、早苗、李子、静子、見立に行。予、弥生町堀田妙子様御病氣尋ねたるに、追々御快方のよしを承りて先々

安心く致したり。李子よりすゝめられて軽井沢え避暑のつもりして準備する。平田照子より軽井沢佐藤実え聞合する。

発信 返書出す、七軒え。

(八月九日〜十五日、記載ナシ)

八月十六日 甲戌 日曜 晴。

朝より帰京の準備とゝのひて、鶴屋主人案内にて、地所の売ものありて見分三行。場所も三井氏の隣にて四方山にて至極風色ニ富たり。一千坪畑地、一坪六拾五錢と云。場所を見て帰。一時四拾分発之汽車にて、送らるゝ人々に誥別して帰。

風清き夏なほしらぬ軽井沢離れかたきはこのはなれ山

八月十七日 乙亥 月曜 晴。 70 (度)。

朝、散歩して帰。暴風雨後、頓に冷氣にて肌に宜し。午下、閑院宮え詣し、季子女王殿下御立にて参拝す。御息所に拝謁して軽井沢の御咄し申上ル。已而退出す。

八月十八日 丙子 火曜 晴。 78 (度)。

朝、散歩して、棚橋總子刀自を尋ね、不在にて、一郎氏御夫婦としはらく談話して帰。

*棚橋總子(棚橋絢子)

八月十九日 丁丑 水曜 晴。 88 (度)。

朝、散歩して帰。十二時より河田氏え行。岡田先生と親しく談話して静座三十分にて帰。帰途、石山基陽氏え(衍)を問て帰。

八月二十日 戊寅 木曜 晴。 90 (度)。

朝、散歩して墓参す。来客、石山すま子。

発信 返書五十五軒え出す。

八月二十一日 己卯 金曜 晴。94(度)。

早起。散歩して帰。九時より岡田氏え行、治療うけて帰。斎藤仁子え心身療養法一冊郵送す。

発信 金式円香料、宮内氏、筆や。

*筆や(筆屋)

八月二十二日 庚辰 土曜 晴。92(度)。予記 訃音、伯爵阿部正桓、十九日薨去。廿

七日神葬、午前八時谷中斎場ニテ。

朝、李子六時半汽船にて渡房いたしたり。志賀鉄千代を誘引て女中二人と同行。予、墓参致し帰る。来客、久米民之助、八千代と来る。仏前に普門品読経して行。鈴木豊子、佐々木豊子。夜も散歩して帰。

*八千代(万千代)

八月二十三日 辛巳 日曜 晴。90(度)。

朝、阿部伯え御悔み申、霊前参拝して帰。岡田氏え行、治療をうけて帰。日独開戦。独乙、竟に回答せず。独乙政府ハ所定期限なる今廿三日正午迄に何等の回答なさず。以て帝国ハ愈同時刻より独帝国と交戦状態に入りたり。光荣ある帝国陸海軍の活動ハ是より刮目すへき膠州湾の陥落、期して待つへきなり。本日正午を時計に向つて待ちに待ちたり。国民の血湧き肉躍る此一期也。本日午後六時官報号外を以て大詔渙発。

発信 阿部伯え玉串料金千疋備えル。

(「国民新聞」第号外)

*備えル(「供えル」)

八月二十四日 壬午 月曜 晴。90(度)。

朝、散歩して帰。

八月二十五日 癸未 火曜 晴。94(度)。

朝、散歩して帰。九時半より豊島岡季子女王殿下御四十日祭御執行。御墓前参拝して、岡田耳医え行、治療を受けて帰。

八月二十六日 甲申 水曜 晴。

朝、白山神社へ参詣。日独交戦二付我軍大勝利御祈禱申上ル。来客、多豊、報知新聞記者に面会す。

八月二十七日 乙酉 木曜 晴。94(度)。

朝、氷川神社に参詣す。岡田氏え行、耳の治療を受けて帰。

八月二十八日 丙戌 金曜 晴。

朝、白山神社に参詣して帰。此夜、大雨降りしきる。

受信 李子よりはしめては書着。廿九、三十日帰京のつもりと云。

*は書(端書)

八月二十九日 丁亥 土曜 暴風雨。94(度)。

昨夜よりの暴風雨にて散歩せず。終日ふりつゝ。裏の川、急流おそろしき様なれと浸水のうれひなし。此夜十二時頃にて少雨となる。

八月三十日 戊子 日曜 晴。94(度)。

早起。白山神社に参詣して帰。風強く倒れそうになる。朝、浦四三子来る。午下、細川侯弔詞申上る。孝子様、外皆様ニ御目にかゝる。金千疋玉串料備える。御霊前参拝して帰。本日、寿子、早苗、静子、銚子より帰と云のてみなく、両国迄迎ひに行。夜八時過、無事帰宅す。

*備える(供える)

八月三十一日 己丑 月曜 晴。94 (度)。

朝、氷川神社に参詣して光円寺へ寄。来月二日之法事頼依す。来客、小早川式子さま、万子さま、御帛紗の御相談に。本日、李子帰京二付、又皆々迎ひに行。午下四時、無事帰着。今朝の新聞にて東海道箱根及湘南辺大洪水にて流出浸水甚しき由、小田原辺え見舞の端書出す。橋場小松侯、三条家え見舞ふ。

*頼依(依頼)

(九月)

九月一日 庚寅 火曜 晴。94 (度)。

朝、白山神社に参詣して帰。来客、津田栄子、夕景まで。光円寺え明日之法事二付御経料五円を贈る。

九月二日 辛卯 水曜 晴。90 (度)。

朝、氷川神社に参詣して、帰途、光円寺に参る。貞照院釈重光 重子 三十三回忌。円明院釈重海 重太郎 三十三回忌。右二人之法事相勤る。予、正子、弘、寿子、李子、靖子参詣す。

九月三日 壬辰 木曜 晴。92 (度)。

朝、白山へ参詣して帰。正子、津田え行、一泊す。月光如鏡。

九月四日 癸巳 金曜 晴。92 (度)。

朝、氷川神社に参詣して帰。予、李子と同じく、閑院宮季子女王御五十日祭に参拝して帰。御神前へ、御玉串金五円也さゝける。来客、岡崎忠子、吉沢尚夫婦。正子、津田にて二泊して。月食、雲なく晴たる夜にてよく見えたり。

*さゝける(捧げる)

九月五日 甲午 土曜 晴。 93(度)。

朝、白山神社に参詣して帰。白山神社、往復五千四百足。正子、津田より帰。細川護成侯会葬、木村代理。

九月六日 乙未 日曜 晴。 88(度)。

朝、簸川神社に参詣して帰。簸川神社迄、往復五千六百足。正子、市川へ行。朝、岡田氏え耳の治療をうけて、閑院宮え詣す。両殿下ニ拝謁してはらく御談話申上。御昼餐戴て去ル。

九月七日 丙申 月曜 晴。 90(度)。

予記 本日より始業。
朝、白山神社に参詣して帰。始業式。七時半、生徒講堂ニ集。校長始業之挨拶、時局之講話ありて、后、大東主事、時局ニ付地図によりて委細之談話ありて済。

九月八日 丁酉 火曜 晴。 92(度)。

朝、牛天神に参詣して帰。牛天神、往復四千足。課業例の如し。正子、代々木へ行。

九月九日 戊戌 水曜 晴。 90(度)。

朝、簸川神社に参詣す。課業例の如し。午早々、河田氏え行て帰。来客、大坂高岡弥太郎、元河原原田富士子御礼に。

簸川神社え御神酒一円備える。光円寺先住一周忌ニ付、菓子一箱、金巻円、霊前え。

*備える(供える)

九月十日 己亥 木曜 晴。 82(度)。

朝、白山え参詣して帰。課業例の如し。来客、長岡愛子。
午下九時、泰、銚子より帰。正子、代々木より帰。

九月十一日 庚子 金曜 小雨。90(度)。予記 校外生始業。

本日より校外生始業。午前午后之稽古する。来客、五島善子。

九月十二日 辛丑 土曜 二百廿日。風なく小雨、夕景より大静穏、可喜。晴。90(度)。予

記 午后三時より愛国婦人会。午后七時より海事協会委員会開。

朝、牛天神に参詣して帰。課業例の如し。午后二時より山根氏新築移転ニ付悦ニ行。それより愛国婦人会ニ行。時局ニ付相談会。出征軍人え慰問品を贈ル事、煙草二箇甘本入ツ、と云。戦死者、順戦死者え香料として金三円ツ、と云。此夕七時より海事協会時局ニ付相談会。婦人部より、桜丸、さか木丸か御用船に相成て活働しつゝある、この船員え慰問袋を贈る事。

*順戦死者(準戦死者) *さか木(榊) *活働(活動)

九月十三日 壬寅 日曜 細雨。90(度)。

朝、三崎稻荷え参詣して帰。天晴雨不定。夜ニ入て終夜雨ふり通したり。夜二時頃起て、川のあふれ如何と心配す。

九月十四日 癸卯 月曜 雨。

雨にて散歩せず。課業例の如し。強雨しきり也。午頃より裏門ハ浸水、裏長屋ハ早くより浸水。わか庭えはいまた不来。学校門前浸水す。然れ共わか門迄は不難。此時迄雨又ハ晴たり。夕景ハ水も引たり。風なくて大幸々々。

*わか(我が) *いまた(未だ)

九月十五日 甲辰 火曜 晴。予記 宮様、本日より御始業。

寄宿舎にて研究生の始業。十一時迄。午下、恭宮、茂宮成らせ(られ)る。来客、京都大橋信吉、久々にて面会す。

九月十六日 乙巳 水曜 晴。

課業例の如し。午下早々、川田氏え行て帰。来客、井出百合子。

九月十七日 丙午 木曜 晴。

朝、白山神社ニ参詣して帰。此時少雨、已而晴。課業例の如し。午下三時頃より雷鳴甚し。所々に落雷あるかと思ふ。此時大雨集来。勿(忽)にして表電車通より往来川をなし、表門前浸水。庭には入らずして夕景先々水も引、空も晴たり。

*は入らず(這入らず)

九月十八日 丁未 金曜 晴。

朝、牛天神え参詣して帰。校外稽古日。朝より午下三時迄。

九月十九日 戊申 土曜 予記 堀田伯、正午茶事に招かる。

朝、牛天神え参詣して帰。課業例の如し。午前十一時、志賀鉄千代来られ、予、李子と三人連にて堀田伯え参る。先御案内にて御待合に通る。御掃除もよく御行届にて御主人御案内にて御茶席に通る。床、後水尾帝御震(辰)翰、

何故に此世をふかくいとふそと人のとへかしやすくこたへむ

の御歌。御会席種々、皆結構、其味も。中立待合して後入。床花。俄然御主人即席の御哥、

去りやらぬあつさをよそにけふはまた音信て来し君ぞ嬉しき

次濃茶。御手前もうつくしき事、かんし入たり。予も取あへず、

すか／＼し君かこのめの深みとりふかき心は汲てこほるゝ

けふこそは君松風の声きゝてこゝろも清くすみまさりけれ

二度、広間にて御薄いたゞきて、種々面白き御談話にて時を移して、四時退散。

*御震翰(御宸翰) *かんし入たり(感じ入りたり)

九月二十日 己酉 日曜 晴。

簸川神社に参詣して帰。午下早々、予、角女を連れて芝青松寺に行。薰風会北野師説教を聞て帰。

九月二十一日 庚戌 月曜 彼岸の入。晴。

朝、白山に参詣して帰。課業例の如し。

九月二十二日 辛亥 火曜 晴。90(度)。

課業例の如し。朝、墓参して帰。図書室研究会如例。午下、宮様二殿下成らせられる。来客、愛知三輪市太郎、画を願出る。夜、雨ふる。

九月二十三日 壬子 水曜 晴。予記 午下一時より海事協会行。

朝、雨中、牛天神に参拝して帰。課業例の如し。午下早々、河田氏え行。それより海事協会二行。慰問袋会員之方々縫れ、勿に百廿袋縫上られ、写真撮影あり。先榊丸えの慰問袋ハ出来たり。五時帰。深夜、雨。

*勿に(忽に)

九月二十四日 癸丑 木曜 曇。70(度)。

朝、車にて浅草観音え参詣。それより本願寺御堂ニ参りて墓参して帰。祖先祭典執行す。本年ハ六月三十日より寒暖計九十度に登りて、続て九十度、九十九度に登る。紹の羽織もあつくて紗の羽織にておし通す。今日頓に冷氣覚え、ふらねるに拾羽織と云。昼頃より雨ニ成て細雨ふりつゝ。夜も。

発信 木津跡見え返事。正司氏えも。早川京子え。

*ふらねる(フランネル)

九月二十五日 甲寅 金曜 雨。70(度)。

昨日よりの雨つゝき。校外稽古日。午下も。

九月二十六日 乙卯 土曜 雨。

課業例の如し。

発信 秋田長井氏え返書。

九月二十七日 丙辰 日曜 彼岸決願。晴。

朝、簸川神社ニ参詣して、帰途植物園ニ行。秋色草花種々咲出で殊ニ妙也。終日揮毫ものす。

発信 大宮智栄師え。木津若間平七え。

*彼岸決願(彼岸結願)

九月二十八日 丁巳 月曜 60(度)。予記 午下一時三十分、愛国婦人本部にて打合せ会。

朝、白山神社に参詣して帰。課業例の如し。午下一時過より愛国婦人会本部にて来月六日総会之準備相談会。出征軍人ニ慰問袋の相談もありて三時帰。青山御所姉小路より電話にて先達ての品もの取に遣しくれとの事にて、明日朝の内、人足さし上る筈にいたし候。

九月二十九日 戊午 火曜 雨。60(度)。

朝四時頃より少雨。此時、牛天神え参詣して帰。図書室の稽古ありて、午后、宮様、黒田様、御稽古申上る。雨にて青山御所えの使やめに致し候。長岡愛子。

九月三十日 己未 水曜 雨。

課業例の如し。午下早々、河田氏え行て帰。久米民之助より書至。小野幸子。夜通し強雨降つゝきたり。

受信 新潟名畑より書着。

(十月)

十月一日 庚申 木曜 雨。

朝も雨にて神参りもいたさず。課業例の如し。朝の新聞にて江の島の海嘯なみにて漁夫の行衛不明もの沢山のよし也。本日給着初る。

発信 小包、斎藤善子え。同、志村勘兵衛え。早川京子。

十月二日 辛酉 金曜 秋晴。

校外生稽古日。橋本艶子、古や朝、本日より習画願出る。午下、研究生稽古する。青山御所え車夫二人荷車もたせて参らす。洋服、箆子、其外煎茶器、御写真帖、御本類等、沢山下される。来客、久米民十郎、渡英二付暇乞に来る。発信 土井田鶴え小包。早川京子え。

*古や朝(古屋朝子) *箆子(箆笥)

十月三日 壬戌 土曜 晴。予記 小松宮頼子殿下御百日祭、朝十一時より。

朝、白山に参詣して帰。課業例の如し。朝十時より豊島岡小松宮妃頼子殿下御墓前祭に参拝す。天気秋日和、清々しく覺えたり。

十月四日 癸亥 日曜 晴。

朝、牛天神に参詣して帰。昼早々、青山御所ニ参る。姉小路典侍ニ御目にかゝる。此時、御内儀より御持にて、

昭憲皇太后宮御遺品

鈍銀製金鶏一番御模様の御肉池

象牙彫刻船遊人形

右御二品、花蹊え御下賜ニ相成。新樹典侍様御取扱にて候。実にかゝる貴重品、家代々の宝物、難有拝戴いたし候。

受信 しめし一籠、幸島菊子え。

(欄外に) 彫刻

*鈍銀製(純銀製) *しめし(占地) *幸島菊子え(幸島菊子より)

十月五日 甲子 月曜 晴。予記 五日午後五時、上野精養軒にて晚餐会、民十郎渡英之送別。

朝、氷川神社に参詣して帰。課業例の如し。五軒姉小路え良子様より下されもの、車夫二荷車にて戴に遣し候。先帝陛下の御品御残り物、黒塗御台子、ヒダスキ御文台、硯箱、御燭台一對、其外御書籍類いたゞき候。午下三時半より、予、李子と、上野香風会初開場日なから見二行。小林鍾吉様御案内にて熟視致され候。点数も沢山にて、洋画の進歩的いちしるしく、変化もあり、見事也。それより精養軒に行。民十郎送別会ニ付、和洋画家のみにて食事中、親久米民之

助挨拶、満谷氏来賓惣代祝詞。食事済で、別席にて民之助書画帖取出して、本日の記念之為と来賓不残席上揮毫ものにて、九時帰。

受信 野副とよ、梨子一箱着。

発信 返書、幸島菊子え。

*ヒダスキ(飛驒杉) *香風会(光風会)

十月六日 乙丑 火曜 晴。

氷川神社に参詣して帰。図書館ニテ研究生稽古済で、午下、恭宮様、茂宮様御稽古上る。

十月七日 丙寅 水曜 晴。 予記 当校遠足会、大磯行。

振天府拝観、本日も又八日木曜かの見込。

愛国婦人会より、午前十一時三十分迄二本部え参集 振

天府拝観之事。

午前十時より午後三時迄、九段偕行社にて来賓二対し茶

話会接待方。

午前九時より午後一時迄と云。愛国婦人会。

愛国婦人会三井氏案内にて、支部長夫人、男子も三人計にて宮内省に参り、仕人之案内にて振

〔天府参観す。侍従武官長内山氏の懇切なる説明にて、先帝陛下之御震(宸)襟御なやまし

いか計と日清戦争の当时を思起して感涙惨然たり。御座之間の御眺望の御よろしき処にて休憩

陛下よりの御煙草いたゞき有かたき事也。一時より三時迄にて相済、退出す。

*いか(如何)

十月八日 丁卯 木曜 雨。

昨夜よりの雨にて運動会も好都合也。昨夜、黒田侯爵よりの御案内にて、朝九時より、予、李子と黒田家に参る。御家宝なる御名軸もの、馬達の山水大幅もの、画帖もの、みな国宝とすへきもの凡五十幅位御かゝけにて親しく拝見致し、好参考と相成、大仕合也。御昼戴て御二階の景色も結構にて二時頃御暇申上ル。それより閑院宮様え参り、妃殿下御不在にておみきさまと暫時談話して、御かり殿に参拝して帰る。

*馬達(馬達)

十月九日 戊辰 金曜 晴、夜雨。

朝、白山に参詣して帰。校外生の稽古、朝より午下二時半迄。来客、黒田直躬氏、御使者にて家庭教師之事ニ付御依頼に來られたり。

十月十日 己巳 土曜 晴。

牛天神え参詣して帰。課業如例。午後早々より泉会。出席者実に多くて盛也。瀬川博士講話、時局ニ付欧羅巴地理より解出して戦争形状委しく咄されたり、三時半迄。後茶菓にて夕景まで。朝七時四十分御発車、閑院宮両殿下、広島御台臨ニ付新橋迄奉送申上ル。

*解出(説出) *戦争形状(戦争状況)

十月十一日 庚午 日曜 晴。

簸川神社に参詣して帰。午下(以下、記述ナシ)。

十月十二日 辛未 月曜 晴。

朝、白山え参詣して帰。課業例の如し。

発信 茂木松子え。北海道早川懐川え。木津跡見え。

十月十三日 壬申 火曜 晴。

朝、牛天神え参詣して帰。図書室稽古済て、午下、恭宮、茂宮、御稽古上る。

十月十四日 癸酉 水曜 晴。

朝、氷川神社に参詣して帰。課業例の如し。午下、河田氏え行て帰。

十月十五日 甲戌 木曜 晴。

朝、牛天神え参詣して帰。課業例の如し。

十月十六日 乙亥 金曜 晴。

朝、氷川神社に参詣して帰。校外生、朝より。午後も稽古する。夜八時半より新橋え行。閑院

宮内殿下、広島より還御ニ付御迎に参る。九時五分御着。御機嫌よく御着也。

受信 木津跡見より書至。

発信 土井氏え返書す。

十月十七日 丙子 土曜 神嘗祭。晴。予記 如春好天気。

朝、白山え参詣して帰。八時より五年乙組のみ慰問袋え入レル扇子揮毫をみる。先五年組扇子出来上ル。鶯箋全紙二枚揮毫す。正子、靖子、早苗連て羽根田辺え遊ひに行、夕景帰。

*鶯箋(画牋)

十月十八日 丁丑 日曜 晴。午下二時頃より雨降出す。

朝、牛天神え参詣して帰。午下早々、芝薫風会ニ参り、山科師講話二座聞て帰。帰途、閑院宮に詣して御息所拜謁して帰。夜も雨ふりたり。

十月十九日 戊寅 月曜 晴。70(度)。

朝、墓参して帰。課業例の如し。朝、青山御所姉小路良子様より御電話にて、けふ午下車もたせて参れとの事にて、車夫に申付、荷車もたせ参らせたり。良子様より下されもの、御簞笥一棹、昭憲皇太后陛下の御打着、御緋袴一具、赤地錦欄の定家袋の中二種々御細工物入にて御哥かるた一箱、史記一箱下され、何共く身にあまりし貴重品いたゞきて、家の誉れと有かたかり候。

*御打着(御桂) *赤地錦欄(赤地金欄)

十月二十日 己卯 火曜 曇。70(度)。

朝、白山え参詣して帰。午前、寄宿舍研究生稽古する。午後、恭子殿下、茂子様御稽古申上る。後、揮毫ものす。

発信 姉小路良子様え御礼状出す。返書、大宮智栄え。

十月二十一日 庚辰 水曜 晴。

朝四時、五年生修学旅行、人員六十六名、学校より八廿二人車にて出立す。予、牛天神え参詣

して帰。課業例の如し。午下、河田氏え行て帰。天気晴朗心地よし。正子、津田氏え行、一泊す。

十月二十二日 辛巳 木曜 晴。

朝、白山に参詣して帰。課業例の如し。夜に入て雨。朝七時半、京都李子より電報ニテ、昨夜ミナブジ着と。来客、増田浪江、侯爵細川孝子後室、美尾野八重。

受信 大聖寺より松茸、栗着。今西より松たけ着。

発信 書をよす、大宮尼え、大聖寺え、秋田千田え、神戸今西え、大聖寺え、早川京子え。

十月二十三日 壬午 金曜 雨。

朝、校外生稽古する。十一時頃より空晴渡りたり。午下の研究生稽古する。

発信 木暮え返書出す。

受信 木暮まちより、しめし一籠着。

*しめし (一占地)

十月二十四日 癸未 土曜 晴。 予記 季子殿下御百日祭、午前十時。御墓前祭、十二時。

朝八時、新橋着にて修学旅行人員一同無事帰着。此四日間雨なく晴天のみにて実珍らし。予、

九時より豊島岡閑院宮季子女王殿下御百日祭、御墓前祭に参詣して帰。午下、青山御所え参り、藤袴典侍様御局にて過日の御礼申上る。藪兼子様より先帝の御大葬之御写真帖箱入戴く。夕景

帰宅す。

十月二十五日 甲申 日曜 晴。

朝、牛天神え参詣して帰。佐野延勝中将家に行。御老母熊谷より御帰着ニ付、御見舞ニ行。御老人泣て御悦にて暫く御談話申上る。言語分りかね、一寸言葉出です、それがシンキな様にて、外ハ存し外、健康之様に見請らる。右半身不自由にて実にお気毒ニ存候。帰る時も泣ておはなしにならず、共涙ニくれ候。来客、西沢。

受信 俵松子より梨子一籠。閑院宮様より、両陛下より拝領之御菓子賜はる。

*おはなしにならず (一お放しにならず) *シンキ (辛気)

十月二十六日 乙酉 月曜 晴。

白山参詣して帰。課業例の如し。

受信 茂木保平氏三回二付、御菓子、御茶到来。

十月二十七日 丙戌 火曜 晴。

朝、氷川神社に参詣して帰。研究生教授して、午下、恭子女王、茂子様御稽古申上る。季子女王殿下御遺物白羽二重下され候。横浜茂木え、清、使二出す、香料金三円也。泰、石神井より夜二入て帰。鴨、其外廿羽獲物あり。

十月二十八日 丁亥 水曜 晴。

朝、牛天神に参詣して帰。有約、朝八時、宮城県知事夫人俵松子、久々にて来られ、種々はなし不尽、九時帰。課業例の如し。十二時早々、河田氏へ行。それより愛国婦人会本部にて常集会出席す。四時帰。来客、支那大治西沢好子。

十月二十九日 戊子 木曜 晴。朝雨晴て、午後三時又少雨降出して後止。79 (度)。

朝雨、已而晴。白山神社に参詣して帰。課業例の如し。午下早々、予、正子と代々木大炊氏を問ふ。久々にて石山、大炊師前氏よりも集りて種々談話して、近辺大勢にて散歩する。雨ふり出して途中より引返し、夕餐を饗せられて、九時半帰。

十月三十日 己丑 金曜 雨。雨終日ふり通したり。

朝より校外生稽古。午下二時よりも研究生稽古する。津田栄子、正子、李子、本郷座二行。栄子一泊す。

十月三十一日 庚寅 土曜 雨。

天長節。祝日ながら涼暗(諒闇)に付、御祝賀請させられさる二付、参賀ハなく、学校ハ只休業のみ也。朝より雨中二付揮毫ものす。

受信 依田直子より松茸、六甲山焼湯のみ(呑)、ふたもの(蓋物)着。

(十一月)

十一月一日 辛卯 日曜 雨。

朝、白山に参詣して帰。終日揮毫ものす。

十一月二日 壬辰 月曜 晴。

牛天神に参詣して帰。課業例の如し。余、李子と横浜に行。原富太郎氏久しく痔疾にて臥籠られ候を、日々見舞度と申つゝけなから其時を得ねと、申訳なく、けふこそと大奮発して原氏を問ふ。富太郎氏病氣も先々全快とはあらねと、店の多忙にて出勤中と聞て大に安堵す。安子、春子もみな留守にて、庭園の模様もよほと替り、三重塔建設相成て庭の位置よく引立て、園中散歩す。六角堂も出来てすへて斉頓いたしたり。秋草の残り咲たるも一入よろしくて、もはや日役に相成て帰る。此時安子もみな鎌倉より帰られて、古郷氏、みの青木氏、西郷氏、みな逢ふ事を得、大に満足。夕餐一同と卓をかこみて談笑中、自動車にて汽車場迄送られて帰。十五夜後の月見、殊に清し。心地よく九時帰。

*斉頓(整頓) *日役(日没) *みの(美濃)

十一月三日 癸巳 火曜 晴。

朝、白山に参詣して帰。寄宿研究生稽古。午下、恭宮、茂宮、御稽古申上る。来客、宇都木繁子、其娘と久々にて来られ、画願出る。

十一月四日 甲午 水曜 晴。

氷川神社に参詣して帰。課業例の如し。午下、川田氏へ行。帰途、閑院宮に詣し、御息所に拝謁して暫時御談話申上て退る。鳥居忠文字爵葬送二而、木村代理す。

十一月五日 乙未 木曜 晴、后雨。

朝、牛天神に参詣して帰。課業例の如し。午下より揮毫ものす。

発信 小包物、依田直子え、小暮まちえ、美尾の八重え。

*美尾の八重(美尾野八重)

十一月六日 丙申 金曜 晴。

朝より校外生稽古する。午下、又研究生稽古する。

発信 近江泰一郎、画出す。

十一月七日 丁酉 土曜 晴。

朝、白山神社に参詣して帰。課業例の如し。此朝、裁縫場男物綿入四枚、男帯一本紛失す。号外、陸軍省公表、青島陥落。

七日午前七時、我第一線の一部ハイルチス、ビスマルク、モルトケ砲台を占領せり。敵ハ午前七時頃天文台上に、午前七時半比対岸堡壘に白旗を掲ぐ。中央堡壘の奪掠に引続き、左翼隊ハ今七日午前五時十分小堪山北堡壘を、又中央隊ハ午前五時三十分台東鎮東堡壘を占領せり。

此号外に接して実に手の舞足の踏処をしらす。早速に号外を神前にさゝけて御礼申上ル。此夜、泰、旅より帰宅。獲もの沢山、山鳥、雉子也。此夕刊に駿河台金杉病院出火、今朝四時比と云。それより駿河台所々え電話にて見舞申入ル。

*獲もの(獲物)

十一月八日 戊戌 日曜 晴。

朝、氷川神社に参詣して御神酒さゝけ御礼申上る。帰り、揮毫ものす。午下早々、駿河台戸田伯、秋元子、田村氏、今津氏、西村政子を見舞ふ。西村真向ひにて実ニ危険千万也。然し家財ハみな片付られたり。風なくて先々たすかられたり。予、日暮帰宅す。来客、田村静子母。本日ハ朝より戸毎に国旗を掲て戦捷の歓声天地に満つ。この夕刊に、開城、規約調印、独帝に電奏。

発信 幸島きく子え画、小包にて出す。

*

十一月九日 己亥 月曜 雨。

朝、牛天神社、太田神社に参詣して、御神酒さゝけて御礼申上る。課業例の如し。

勅語

青島攻撃に参加したる陸海軍に対し、十一月七日、左の勅語を賜りたり。

御沙汰

又大元帥陛下にハ青島攻撃に参加したる英国陸海軍に対し、十一月七日、左の御沙汰を賜りたり。

皇后陛下御沙汰

皇太子殿下令旨より

受信 京都弘より書至。

十一月十日 庚子 火曜 晴。風甚。

朝、白山に参詣して帰。朝、図書室研究生稽古して、午下、恭宮、茂宮、御稽古申上ル。揮毫ものす。夜町の景形を見に行。風ひとく淋し。区役所より十一日祝勝会、戸毎に国旗、献灯出す様触あり。青島陥落ハ宣戦煥発より七十七日目、十一月七日に占領出来たり。

*さゝげ(捧げ) *景形(景況)

十一月十一日 辛丑 水曜 晴。予記 市中戦勝祝日。

朝、牛天神に参詣して帰。わか校、朝第一回授業して式場に生徒全部を集め、校長戦勝之辞ありて、主事大東氏青島陥落講話アリ。畢而、天皇陛下万歳、陸海軍万歳を三唱して退散。予、午下早々、河田氏え行。帰途、角田氏訪問す。市中祝勝之形況を見る。靖国神社より宮城前、仕掛花火、群衆雑島(杓)、日比谷公園祝賀会ハ日本国民の祝賀会と称するも不可なき也。所々見廻りて三時帰。

受信 吉田保より書至。

*わか校(我が校) *形況(景況) *雑島(雑杓)

十一月十二日 壬寅 木曜 晴。

朝、白山に参詣して帰。午前課業畢る。予、車にて上野文展に行、絵画を観る。日本画の進行著しく感服之外無。それより美術協会に観る画の退歩、よほととの相違也。外に光琳、幹山之参考品数多あり。尽く観て帰。三時頃也。房州跡見より落花生着、即封返事出す。土井氏、大宮氏、早川氏えも。

*幹山(乾山)

十一月十三日 癸卯 金曜 晴。

朝、校外生稽古す。午下も同しく。

十一月十四日 甲辰 土曜 晴、后雨。

朝、牛天神へ参詣して帰。課業例の如し。午下草々、日本婦人協立育児会、日本私立衛生会にて、総裁有栖川宮憩子様御台臨、久々にての総会也。殿下ノ御令詞、会頭鍋島栄子奉答、金子子爵、清浦子爵、講話有て盛会也。久々にて殿下拝謁。種々御咄し申上ル。五時退散。泰、本日、花輪へ行。

受信 幸島菊子より書及潤筆着。直ニ返書出す。

午下草々(午下早々)

十一月十五日 乙巳 日曜 曇。

朝、白山に参詣して帰。晴雨不定といふ天気、十一時より十二時迄の大強雨、おそろしき迄也。午早々、雨やみて、それより予ハ車にて芝青松寺薫風会に参る。三時過迄、山科師の説教聞て帰。

発信 秋田庄司兵蔵え画出す。房州跡見えも。

十一月十六日 丙午 月曜 陰。

朝、牛天神に参詣して帰。課業例の如し。午下四時より、予、正子、寿子と同しく帝劇に行。忠臣蔵を見る。実によく演したり。七段目迄にて、跡、二人腕久、梅幸、小団治にて所作おもしろし。十一時過帰。

十一月十七日 丁未 火曜 晴。

朝、牛天神に参詣して帰。朝、図書室研究生の教授して、午下、恭宮、茂宮御教授申上る。
受信 岐阜西野町山田与十郎より栗着。

十一月十八日 戊申 水曜 雨。

課業例の如し。午下一時より支那西沢氏招によりて、予、李子と新富座二行。演劇、始、聚楽

物語 秀統高野落迄、大安寺堤 雁治郎得意の芸、梅川忠兵衛、切、小鍛冶、善玉悪玉也。九時済て帰。

受信 五島盛光子、端書着。

*秀統高野落迄(秀次高野落迄) *大安寺堤(大安晏寺堤)

十一月十九日 己酉 木曜 晴。

朝、課業例の如し。午下、墓参して帰。来客、西村政子、婦人世界記者坂水とわ。

十一月二十日 庚戌 金曜 晴。

校外生稽古。午下も研究生稽古する。朝、青山御所姉小路良子様御所労のよし二付、御見舞使出す。文の御返事に、御病気ももはや全快にて昨日より御出勤と申事也。先々安心々々。

中田富子結婚祝、白縮緬一反、松魚一箱を贈る。

十一月二十一日 辛亥 土曜 晴。夜八時頃より雨。

白山神社に参詣して帰。課業例の如し。洋種鶏頭、春日町電車通りに咲乱れたるを画にせば面白しとて、其内に乞て三枝もろうて帰。直に玉盤紙に揮毫す。来客、高輪茂木氏使。閑院宮様より御庭の紅葉染出したりとて、廿三日午後一時より参殿の事御答申上たり。陛下、摂河泉大演習済せられ、本日御還行。

*還行(還幸)

十一月二十二日 壬子 日曜 晴。

早朝より揮毫ものす、終日。千久子の忌日二付、予、正子、早苗と同じく墓参して帰。此日重たけ房州より来る。午下四時頃俄然村時雨ふる。本日、独乙俘虜、東本願寺に来る。市中見物人雑沓。夕景又雨、霰を交ふ。

発信 土井氏え、大宮氏え書出す。

十一月二十三日 癸丑 月曜 晴。予記 午下一時より閑院宮え参殿之事。

朝、白山に参詣して帰。午下一時より閑院宮え参殿す。御息所に拝謁す。御庭中散歩しつゝ楓葉をみる。染出せるあり、いまたしのもあり、奇麗々々。来月始頃盛也と思ふ。然し紅葉の沢

山なる、実おひたゝし。夕陽の紅葉に英したる、雲の色と云ひ、秋の空高く、奇絶妙絶也。御合のもの戴て夕景去る。

発信 京都弘え小包、端書出す。

*いまた(未だ) *英したる(映したる) *おひたゝし(夥し)

十一月二十四日 甲寅 火曜 晴。

朝、課業例の如し。午下、恭宮成らせられる。黒田茂宮、御休みに相成る。

十一月二十五日 乙卯 水曜 晴。予記 午下五時、采女町精養軒え中田清兵衛、清水徳太郎招待。

朝、牛天神え参詣して帰。課業例の如し。午下四時半より、予、李子と同しく精養軒に行。中田富子、清水徳太郎結婚披露会祝宴、盛会也。食堂開けて先媒酌人なる法学博士岡野敬次郎君の演舌、来賓惣代後藤真平君、次に柏原氏之朋友談にて面白し。八時半帰。

*後藤真平(後藤新平)

十一月二十六日 丙辰 木曜 晴。

朝、白山え参詣して帰。此朝、茂木栄子来る。恒子病後の修学二付、相談して愈火曜日書画之稽古に来る事に相成たり。来客、中田兼女、及富子の母御礼に。

十一月二十七日 丁巳 金曜 晴。

校外生朝の稽古、又午下の稽古も済。

十一月二十八日 戊午 土曜 晴。

朝、牛天神え参詣して帰。課業例の如し。午下四時過より、予、正子、泰、寿子と新田氏え約招かれ、石山氏先有、例の好美味なる馳走にて種々の談話にて面白し。十時半迄にて帰。

十一月二十九日 己未 日曜 晴。

朝六時半、重たけ京都え出立。白山神社え参詣して帰。此朝の寒さ甚しく、始め(て)氷を結ぶ。霜雪の如し。午下早々、宮城万里小路幸子様え参り、久々御機嫌伺。智子様と種々御物語

して、皇后陛下え汲泉二部献上する。御合のもの戴て退る。点灯頃帰。泰、銚子え行。豊田その女昨廿八日死去、しらせあり。来客、石川房子。

十一月三十日 庚申 月曜 晴。

課業例の如し。来客、柏原むろ子、午下四時より牛天神え参詣して帰。御所、皇后陛下より御召御反もの、御目録三千疋、御下賜。

発信 大宮尼え。早川氏え出す。豊田そのえ香料金三円贈ル。

(十二月)

十二月一日 辛酉 火曜 晴。

朝、白山神社ニ参詣して帰。恭宮様、御稽古御断申上たり。午下一時より海事協会ニ行。女子部創立記念日ニ付記念会。本年ハ諒闇にも被為在候ニ付、常務員のみ会合す。細川風谷之講談、誉の夫婦、浜野矩随の二席。畢而酒肴ありて七時帰。

受信 土井田鶴子より生干魚一籠着。

十二月二日 壬戌 水曜 晴。

朝五時起て揮毫ものす。課業例の如し。午下早々、河田氏え行而帰。夕景、牛天神に参詣して帰。

受信 土井氏より端書着。千葉鈴木恭子より文着。山田与十郎よりも。早川京子より為替着。

発信 大坂天下茶や川端氏え返書ス。尾鷲土井氏え。神戸早川氏え。

*天下茶や(天下茶屋)

十二月三日 癸亥 木曜 晴。

課業例の如し。午下、揮毫ものす。夕景白山に参詣して帰。重たけ、夜十時京都より帰。泰、銚子より帰。兔二頭、山嶋十五、六羽を得て帰。

十二月四日 甲子 金曜 晴。

校外稽古日。午下も同しく教授する。報知記者座間勝平来る。夕景より牛天神に参詣して帰。
発信 茂木松子え御手本、小包にて出ス。

十二月五日 乙丑 土曜 晴。殊に暖し。

朝、課業例の如し。有約、津田栄子迎ひに來り、予、李子と三人同しく築地二丁目の会席料理に行。津田弘視、宮原六之介氏、途中迄迎ひ來られる。午餐会にて席も茶趣味ありて会席出る。みな美味。久々に珍らしく献立も頗る取合せよく、御飯、汁、血(皿)、あま酔もの、御煎(煮)もの、平ふたもの、焼たてのます(鱈)、御さしみ、御壺、とりのほ(そ)ほろになす(茄子)、八寸、御吸もの、香のもの、とてもたべきね(れ)ぬ。三時頃迄にて、夫より帝劇に行。幸四郎、井伊(伊井)、定やつこ(貞奴)の芸也。前、八犬伝、次、ドナコンナ、切、天の邪鬼、笑もの、十時済て帰。

十二月六日 丙寅 日曜 雨。

朝より揮毫ものす。午下四時過より(以下、記述ナシ)。

発信 木津跡見春江より書至。直ニ返書出す。

発信 山田与十郎え反もの、及端書返書ス。大宮尼えも。

十二月七日 丁卯 月曜 晴。夜雨ふる。

課業例の如し。來客、吉田福子、其母と御禮に來る。今般医学士某と結婚齊ひ、鹿兒島に出張のよし也。午下四時半頃より重威を招待して帝劇に行。正子、寿子、案内する。午下、終日揮毫ものす。

十二月八日 戊辰 火曜 晴。

朝より研究生教授する。畢而、恭宮様、茂木恒子、教授する。黒田様ハ御清書にて御直し申上る。

十二月九日 己巳 水曜 晴。

朝、課業例の如し。博愛職工学会本部主管相川勝治來る。熊の皮をもらふ。野田菊子御禮に來る。

十二月十日 庚午 木曜 晴。

風邪にて引籠る。李子、築地サンマー・レレン嬢病氣二付、予代理病院に見舞ふ。
発信 吉田福子え写真を送る。

十二月十一日 辛未 金曜 晴。

朝六時、重威京都に行。校外生稽古、朝、午下共畢。来客、下田英子。

十二月十二日 壬申 土曜 晴。

課業例の如し。試験に付、予の課業休む。

十二月十三日 癸酉 日曜 晴。

朝より来客続きにて日暮まで。北海道相川氏、石山氏、弘道会田中久、田中金子と其娘、下瀬千代子、西沢公雄、好子、喜代子、香山梅子。

十二月十四日 甲戌 月曜 晴。

課業例の如し。午下、予、正子と三越え行て買物す。建築後始めてにて、よく広くすへてか出来上りて心地よし。三時頃より銀座辺散歩しつゝ種々買物して、池の端伊豆菜え行。約の如く、泰、寿子来りて晚餐をこの楼上にて済せて、上野、神田辺、暮の店飾にて奇麗にて八時頃帰。

十二月十五日 乙亥 火曜 晴。

朝、墓（ボ）参して帰。図書室研究生稽古済て、午下、恭宮成らせられ御稽古申上る。

十二月十六日 丙子 水曜 晴。

朝、課業如例。午下揮毫ものす。

受信 土井氏より、するめ、為替着。

十二月十七日 丁丑 木曜 晴。

朝の課業例の如し。午下、揮毫ものす。所々え歳暮もの贈る。西沢喜代子、予、李子と紅白巻

絹一台、松魚二円、結婚二付贈りものす。

十二月十八日 戊寅 金曜 晴。

本日凱捷（旋）日二付、臨時休業す。学校ハ半日休業。朝より揮毫ものす。相川氏え老松之図、梅花之図、懸樋 一月もの、養老之詩、雉子、藤花、落款、本日渡す。花売日にて市中みな赤き菊花之徽章にてにきくし。三時過より牛天神え参詣して帰。

十二月十九日 己卯 土曜 晴。

課業例の如し。裁縫職員高津ふて女辞職二付別（送）別会。差（作）法室にて職員一同親子廿（井）にて午餐をなす。

十二月二十日 庚辰 日曜 晴。予記 午後五時、築地精養軒、山田照子結婚披露会。

終日揮毫ものす。午下四時半より、予、李子と同しく采女町精養軒に行。山口、山田氏結婚披露会ニ会す。実に可驚、花美を極めたる装飾、大臣たちも御出にて、盛大言計もなき事也。八時済て帰。此朝、三筋町松平家え悔に行。岳子様、御姑さまにも御目にかゝり、御病状も御咄しにて、実に御いたましき限りなく候。御霊前参拝して帰。

十二月二十一日 辛巳 月曜 晴。

朝、課業如例。此夜九時東京駅着にて、重威、京都より帰。来客、加藤政子 同姉と同道、此度縁談齊ひたるよしにて御礼に来る、松平鞆子。岩浪稻子より沖（興）津鯛着。

十二月二十二日 壬午 火曜 晴。

朝、図書室研究生稽古納をなす。来客、鳥尾智勢子、東京朝日新聞記者竹中繁子。午下、恭子殿下御稽古納め申上ル。北海道長尾仙子より磯の雪三箱着。大坂美尾野より奈良漬一桶着。夕景より雨降出したり。珍らし。

発信 北海道長尾仙子え。大坂美尾野え。

十二月二十三日 癸未 水曜 晴。

昨夜よりはしめて雪ふり三部（分）位。朝、志賀重昂氏来りて、式場に於て過日帰朝の土産

談話ありて、全部生徒聴聞す。

十二月二十四日 甲申 木曜 晴。

朝、生徒一同講堂に参集。九時、校長終学挨拶ありて、次主事大東氏談話、次李子生徒への申聞ありて一同まかりぬ。寄宿生も送別会ニ付大食堂にて食事。畢而余興数番ありて十時畢。発信 小包出す、神戸神代え、酒匂星の(野)え、鎌倉岩浪え、津田栄子え。

十二月二十五日 乙酉 金曜 晴。予記 午下四時より帝国ボ(ホ)テルにて西沢、小橋氏結婚披露会。

寄宿生続々帰省する。越年生七人也。午下、予、李子と例刻より帝国ボ(ホ)テルに集会す。始待合室にて細川風谷之講談と落語二席、済て食堂開けたり。食事半頃、本日八代大将謀(媒)介者、議云之事局ニ付不参。同杉浦重昂(剛)氏挨拶、近藤廉平氏来賓祝辞、予、たのまれ無拠、祝義を申。跡、又余興、細川風谷、加藤三千よ、十三の筑前琵琶、杉浦娘詩吟ありて、めて度退く、九時也。

十二月二十六日 丙戌 土曜 雨。

横山正一え画、小包にて出す。本日、泰、江之島より帰宅す。受信 大坂若間平七より人参一箱。天下茶やより奈良漬二樽。

十二月二十七日 丁亥 日曜 晴。予記 西沢氏、里開き。

朝十一時半より、予、李子と同しく三(山)谷八百善に行。西沢氏夫婦、八代海相夫婦、杉浦重昂(剛)氏夫婦、小橋新夫婦と母堂と也。午餐会にて食事始りて、余興、太甲(功)記十段目一番妙々入たり。芸妓踏(躍)等もありて面白く、点灯後六時過散会す。

十二月二十八日 戊子 月曜 晴。

朝十時より、予、閑院宮様、黒田様、九条様、東伏見宮様、姉小路良子様、同公政様を歳暮に参りて帰り候。

十二月二十九日 己丑 火曜 晴。

朝より尺八絹本に養老之凶二枚揮毫して、京都なる相川氏え小包にてさし出し候。先々是にて本年は揮毫納めをなす。

十二月三十日 庚寅 水曜 晴。

朝より終日歳暮の取替しにて大く繁多を究（極）め候。一月は諒闇中故年礼を欠くとて歳暮にいそかし。夕景より近辺逍遥したりしか、寔に雑沓を究（極）め不景氣ハいつこなるらむおもはれて安心々々。

十二月三十一日 辛卯 木曜 晴、風。

朝より暮の飾付などいたして、明日ハ、予、李子と熱海え旅行之つもりにて準備中、諒闇中ニ付来客もなく礼廻りもなくとて、此暮は大ゐに静閑をきはめ候。家内一同無事本年中もよき年を越えたり。可喜々々。

発信 静岡角田え、美濃遠藤え、木津若間え、大宮花真え、木津柏原え。

大正三年当用日記補遺

十月十九日赤十字え寄附五円也 ○

救世軍療養所設立ニ付寄附五円也 ○○